

婦人関係資料シリーズ

国際資料 No. 56

日本婦人へのメッセージ

—第十二回婦人週間を祝つて—

Messages from Abroad for The Twelfth Women's Week

労働省婦人少年局

Women's and Minors' Bureau
Ministry of labour
Japanese Government

は し が き

労働省が主催して4月10日から16日まで行われた第12回婦人週間に際して、例年の如く諸外国から数多くのメッセージが送られて来ました。それらは、世界の24の国々の著名な個人や団体からのもので、約60通を数え、在日各国公館を通じ、又は直接婦人少年局長あてに送られてきました。

日本婦人の向上が、この国の民主主義と世界の平和を推進する力として、多くの国々の関心と時期を集めていることを示すこれらのメッセージは、日本婦人にとって大きな刺激となるばかりでなく、広く日本社会一般の国際的関心の促進に役立つものと考えられますので、婦人週間中に全国婦人会議の会場に展示した他、和訳、印刷して報道関係機関に配付しましたが、更に広く一般の便宜に供するため、ここにその全文(原文及び和訳)を集録しました。

婦人の地位及び国際理解に関心をおもちの各位の御参考になれば幸いです。

1960年6月

労働省婦人少年局長

谷 野 せ つ

目 次

1. オーストラリア	1
オーストラリア全国婦人協議会	
2. オーストリア	1
オーストリア全国婦人協議会	
オーストリア国民党オーストリア婦人運動連合会	
3. ベルギー	2
ベルギー全国婦人協議会	
4. カンボジア	2
カンボジア社会労働省局長フイラウン・フレツチ女史	
カンボジア婦人相互扶助協会	
カンボジア婦人一同	
5. カナダ	3
カナダ労働省婦人局長マリオン・V・ロイス女史	
カナダキリスト教婦人矯風会	
カナダ全国婦人協議会	
カナダ大学婦人協会	
カナダY W C A	
6. セイロン	5
全セイロン婦人仏教協会	
全セイロン婦人会議	
セイロン婦人協議会	
7. 中華民国	6
中華婦女反共抗ソ聯合会	
8. チェコスロバキア	7
チェコスロバキア婦人委員会	
9. デンマーク	8
デンマーク全国婦人協議会	
10. フィンランド	8
フィンランド全国婦人協議会	
11. フランス	8
フランス全国婦人協議会	

12. ドイツ	9
東京ドイツ文化研究所研究主任・バルバラ・クラフト博士	
ドイツ大学婦人協会	
ドイツ婦人勤労者組合	
ドイツ職業婦人連盟	
13. インド	10
インド中央社会福祉委員会委員長・全国婦人教育協議会会長	
ドルガバイ・デシムツク夫人	
全インド婦人会談	
14. イスラエル	11
イスラエル国会副議長ベバ・アィドルソン夫人	
イスラエル大統領ベン・ツヴィ夫人	
イスラエル在日公使シヤロム・レヴィン夫人	
イスラエル全国婦人協議会	
イスラエル婦人労働者総評議会	
イスラエル婦人同権協会	
イスラエル国際ユダヤ民族主義婦人協会	
15. オランダ	14
オランダ女権主義国際記録保存所	
16. ニュージーランド	14
ニュージーランド全国婦人協議会	
17. パキスタン	15
全パキスタン婦人協会創設会長リアカツト・アリ・カーン夫人	
全パキスタン婦人協会	
18. ポーランド	16
ポーランド婦人連盟協同組合部	
ポーランド婦人連盟	
19. スウェーデン	18
スウェーデン・フレデリカ・ブレーマー協会	
スウェーデン全国婦人協議会	
20. スイス	18
スイス全国婦人協議会	
21. ソヴィエト連邦	18
ソヴィエト婦人委員会	

22. イギリス	19
イギリス全国婦人協議会	
23. アメリカ合衆国	19
米国保健教育福祉省次官バーサ・S・アドキンス女史	
アメリカ合衆国在日大使官広報参事官夫人ジョージ・M・ヘリヤー夫人	
アメリカ合衆国労働省婦人局長アリス・K・レオボルド女史	
前アメリカ合衆国労働省婦人局長フリーダ・S・ミラー女史	
アメリカ合衆国大学婦人協会	
アメリカ合衆国有職婦人クラブ連合会	
アメリカ合衆国キャリー・チャツプマン・キヤツト記念財団	
アメリカ合衆国国際婦人通信委員会(コミディー・オブ・コレスポンデンス)	
アメリカ合衆国農村婦人協会	
アメリカ合衆国民主党全国委員会婦人部	
アメリカ合衆国一諸国民友好のための一手紙交換委員会	
アメリカ合衆国キリスト教々々全国協議会婦人連合会	
アメリカ合衆国全国ユダヤ婦人協議会	
アメリカ合衆国全国黒人婦人協議会	
アメリカ合衆国全国婦人協議会	
アメリカ合衆国婦人有権者同盟	
汎太平洋東南アジア婦人協会アメリカ合衆国委員会	
アメリカ合衆国Y W C A	
24. ユーゴスラヴィア	26
ユーゴスラヴィア婦人団体連盟	
25. 国際的団体	27
国際婦人協議会	
国際有職婦人連合会	

日本婦人へのメッセージ

配列は英語による国名のアルファベット順により、一つの国から数通あるときは、個人を先に団体をあとに、全国的団体を先に、それぞれアルファベット順によつていきます。

1. オーストラリア

◎オーストラリア全国婦人協議会

名誉書記 M・マコーレー女史

第12回婦人週間のお知らせを載き、興味深く拝見しました。全国婦人会議が成功をおさめられ、その成果がお国の皆様のために大いに役立ちます様お祈り致します。

2. オーストリア

◎オーストリア全国婦人協議会

会長 ヘンリエット・ハイニツシュ女史

第12回婦人週間にさいし、オーストリア全国婦人協会より御挨拶申し上げます。1946年からのこの短期間になされた日本婦人の業績には目ざましいものがあります。

先日ウィーンで開かれた日本の書道展や、私共の国のフィルハーモニー管弦楽団の訪問演奏、又、オーストリアの音楽学校への留学生などは、両国の相互理解に役立っていますがい、こういうことが世界中の婦人の仕事の共通の目的なのであります。

◎オーストリア国民党オーストリア婦人運動連合会

会長 ロザ・ゾラール女史

外務部長 ギルダ・ゲッツェン女史

1960年の婦人週間を迎えられる皆さまおめでとうございます。

人間は働くためにのみ生きるのではなく、生きるために働くのだという格言を時々思い起してみるのはよいことです。労働のためにすべてを忘れている人々がどんなに多いことでしょう。この人々は自然や芸術、学問が私達に示してくれる沢山のすばらしいものに耳もかき口もきかず通りすぎて行ってしまうのです。

家の中の必要な仕事、家族のために、商売のためにそして共同社会のために婦人達は身を粉にして働きます — が、自分自身のための時間というものは全然持つておりません。この日々

の忙しさに私達の心はすさみ、活力、快活さを失い、つい教養をなおざりにしてしまいます。

今日では苦役に服するような人間は必要とされておりません。

この目的のためには機械というものがあります。これに対し早急に必要とされているものは女性の存在とその価値をよくわきまえた婦人であり母であるのです。私達の個性をのばすためには自分のことを考える時間が必要で、まず一息つき、そして我々の視野をひろくすることが必要であります。

そのためには、計画を立て、自由時間をつくることが婦人にとってどんなに大切か、いくら強調致しましても言いすぎではないでしょう。正しい自由時間をつくり出すことは、私達の精神的肉体的な創造力を保持し、気持に生氣を与え、視野をひろめ、教養、知識という大きな価値へのなかだちとなつてくれます。これらのものは私達自身の生活に真の意義を与えるばかりでなく、同時に私達の家族、私達の国民にそれを分かち能力を私達に与えてくれます。こういう考えによつてこそ、多くの婦人達が自由時間を上手に活用することが出来るのではないかと思います。

皆さまの会議がみのり多きものでありますよう心からお祈り申し上げます。

3. ベルギー

◎ベルギー全国婦人協議会

会長・N・ウィーナー女史

33の支部をもち、1905年以来ベルギー婦人の政治的、社会的、経済的解放のために闘つてきた。ベルギー全国婦人協議会は、日本の皆様の参政権獲得記念の第12回婦人週間に御祝を申し上げるのを嬉しく存じます。

私達は、この婦人週間の成果として、日本の婦人達が自信を持ちお互の連帯性を強められる様希望しております。

4. カンボジア

◎カンボジア社会労働省局長

フィラウン・フレッツ女史

第12回婦人週間に御挨拶を申し上げますと共に、この週間が成功されます様お祈り致します。カンボジアの婦人は、皆様の美しいお国の人々の幸福のため、またカンボジアと日本両国および世界中の婦人の理解のために、日本婦人がなさつておいでになる御努力に対して深い関心

をもつております。

◎カンボジア婦人相互扶助協会

日本における第12回婦人週間に際して、私はカンボジアの全婦人の友情をこゝに再び表明することを嬉しく存じます。

私達は、この12回婦人週間中の皆様の活動の成果がこれまでのものに劣らないものでありますように、そして全世界中の国々で社会及び政治のあらゆる分野に婦人の積極的参加がますます促進されますように希望しております。

カンボジア婦人相互扶助協会の会長として、そしてカンボジアの全婦人の名において、日本の婦人全体の成功と繁栄に対する私の心からの願いをこゝに述べることは、私の大きな喜びでございます。

◎カンボジア婦人一同

1960年4月10日より例年通り行われる第12回婦人週間にさいし、カンボジア婦人より親しく日本の皆様に御挨拶申し上げるのを大変光榮に存じます。

カンボジア婦人は、日本の皆様に心より御声援を送ると共に、婦人が母親であると同時に市民としてのその使命において、大きな成功をおさめられます様お祈り致します。

5. カナダ

◎カナダ労働省婦人局長

マリオン・V・ロイス女史

1960年代のはじまるにあたり再び婦人週間のお知らせを載せ、大変興味深いテーマとあわせて嬉しく拝見致しました。生活の時間割と自由時間という二つの強調事項は、限られた言葉の中に今日の世界に責任ある人間として生きるための欠くべからざる本質にふれて居ります。

現代の世界に生きることは易しいことではありません。私達は、社会変動の速度と複雑さにたじろぎ、毎日の生活の仮借ない圧力に悩まされております。「自分自身の時間割を」というスローガンはまことに急所をとらえた適確なものであり、私達の心に深く訴えてその重要さをはつきりと自覚させます。

1人1人が自分自身の時間割を持つというこのテーマは、判断と行動に自主性を持つという呼びかけであります。これは、しばしば昔のまゝに残つて居る婦人の依存的な劣った立場を打破し、人間として受け継ぐべきもの、即ち法の下に平等な市民としての立場を受けいれるべきことをよびかけるものであります。

この週間に際し、カナダ労働省婦人局から心より御挨拶を申し上げ、第12回婦人週間に
いて地域社会の進歩のために、また個人の成長と社会的責任の達成のために婦人の自覚を促す
という運動が予期以上の大成功をおさめられます様希望してやみません。

◎カナダキリスト教婦人矯風会

会長 イサベル・A・ベリゴウ夫人

1946年の日本婦人参政権の行使を記念して4月10日から行われる第12回婦人週間に
対し、カナダキリスト教婦人矯風会より御挨拶を申し上げます。

今年のテーマ「生活時間の自主的な設計」は興味深いものであり、個人が自分自身の向上の
ため社会の改善のために自分で計画して自由時間を持つよう責任を負わせるものであります。
これについては既に、私達の全国機関誌「白リボン便り」にのせられ関心を促しております。

カナダキリスト教婦人矯風会の全員は全国婦人会議が成功され、皆様の御努力が実りますこ
とを確信して居ります。

◎カナダ全国婦人協議会

会長 G・D・フィンレイソン夫人

23の全国婦人団体と、57の都市および町の地方協議会でできているカナダ全国婦人協議
会は、第12回婦人週間にさいし日本の皆様へ心から御挨拶をお送り致します。

婦人週間のテーマ「生活時間の自主的な設計」は、どこの国の婦人にとつても適用できる有
用なテーマであると思います。この週間におこなわれる色々の行事に大きな関心を持つと共に、
これに参加して居られる皆様全部に対し、御成功をお祈り致します。

◎カナダ大学婦人協会

婦人の地位全国委員会委員長 マーガレット・E・マクレンナン

第12回婦人週間の実施にあたり、カナダ大学婦人協会より日本の皆様へ心から御挨拶をお
送り致します。歴史の古い東洋の文化の世界から近代社会に対して、自己の反省と向上のため、
また社会への奉仕のために一定の自由時間をもつことの価値を思い出させて下さったことは、
まことに時宜を得たふさわしいものと思います。私達は皆様の婦人週間によつてこれを思い出
させて下さったことを感謝致します。

婦人週間の御成功を心からお祈り致します。

◎カナダYWCA

会長 ライリー・スミス夫人

第12回婦人週間にさいし、カナダYWCAより御挨拶をお送り致します。もしこの週間に

よつて日本の婦人が自由時間を持ち、それを自分や社会のために使うことができるよう、自主
的な時間割を作る方法を工夫され、そうすることによつて私達の国ではできそうにもないもつ
とゆとりのある生活ができるようになれば、カナダの婦人達は皆様の習得されたことを、どん
なことでも教えていたさきたいと思ひます。

6. セイロン

◎全セイロン婦人仏教協会

会長 クリソベル・ラジャパクセ女史

日本婦人の参政権獲得を記念する第12回婦人週間に際し御挨拶申し上げることを喜ばしく
存じます。

選挙権は婦人が持つことのできる権利の中で最も有益で強力な権利であります。これは最も
弱いものを一目おくべきものに変化させます。しかし選挙権は火と同様に人間の良き友ともな
れば又恐い敵ともなるのでありまして、立派な目的のため進歩を促すために賢明に行使され
るべきであつて徒に浪費されるべきものではありません。

セイロンの婦人は1931年から参政権を獲得して居ります。選挙権が聡明に行使される様
になる迄には長い年月を必要と致しますが、もし賢明に使われれば婦人が常に希望している幸
福な世界を作り上げることが出来るであらうでしょう。

◎全セイロン婦人会議

22の婦人団体を代表する全セイロン婦人協会から日本婦人の参政権獲得を記念する第12
回婦人週間に再びお祝いを申し上げます。

毎年のこの行事は婦人の選挙権の重要性と、より良い社会の形成過程においておこるいろい
ろの事柄に影響を与える婦人の力を思い起させてくれます。

法律は急速に作られることもできますが、社会的態度は緩慢に変化いたします。そして婦人
は急速に起りうる変化やまた長い期間をかけてはじめて動いて行く変化を起させるために、自
分の時間と能力を使うことが出来るのであります。

婦人週間を通して、自分のためみんなのしあわせのために、どのように時間を使うのが最も
良いかを考えて居られる日本婦人の献身的な態度を私達は賞讃して居ります。

このすばらしい婦人週間中の御計画がすべて成功なさいます様お祈り致します。

⑨ セイロン婦人協議会

名与書記 F・B・F・メル夫人

セイロン婦人協議会は、今日、日本婦人の皆様が参政権を充分に行使して居られる事を喜ばしく存じます。セイロンの婦人は、この権利を1930年のセイロン普通選挙権獲得の時に取得致しました。その時以来婦人は中央地方の、選挙権、被選挙権を行使して来ました。

自分のために、又皆のしあわせのために、余暇を確保し活用することを強調した「生活時間の自主的な設計」という第12回婦人週間のテーマは大変興味深いものであります。

私共のセイロン婦人協議会は、創立以来30年になりますが、この会は、家庭と家族の向上を図ることを第一の目的としたもので、婦人のグループを組織しそのグループの中でこれらの問題を地方の婦人が話し合えるようにつとめて来たものであります。今日では、1500の村にセンターがあり、約15万人の会員を持つて居ります。

特に、お伝えしたいのは、指導者養成所のことです。ここでは、100人の婦人指導員——私達はこれを奉仕員と呼んでいます——が毎年訓練を受けて居ります。これらの奉仕員は、村の会員に基礎教育を行い、裁縫、栄養、料理、食品生産、手工芸、又いろいろな文化活動についての学級を開きます。政府の施策は大変良く、これらの奉仕員は政府と村民の間の連絡員として活動し、既にあるもので会員が知らないでいる設備や制度を知らせ与えるのであります。

私達の村落地帯の会員は殆んどが田畑で働く農民ですが、この人達は会のセンターで自由時間を活用することを覚え、ここで基礎教育を受けて居ります。このような私達の仕事が日本の皆様の御参考になれば幸いと存じます。

婦人週間が成功され、この週間に計画されている集まりが日本婦人の啓蒙に大いに役立つようお祈り致します。そしてまた婦人が高い地位をもっている他の国々と比べて勝るとも劣らない地位を獲得されますよう希望致します。

7. 中華民国

◎中華婦女反共抗ソ聯合会

私達は1946年に日本婦人が選挙権を獲得したことを記念する第12回婦人週間が4月10日から举行されることを知りました。私達はまた皆様の今回の婦人週間の中心テーマが如何にして自由時間を利用し、自己の生活と大衆の福祉の改善にあてるとあることであることを知りました。

私達はあなたがたの主唱するこれらのきわめて有意義な活動に対し、大いに敬意を表するとともに、皆様の各種の活動の完全な成功を衷心からお慶びいたします。

私達がこれらの活動が極めて有意義であるとする理由は、つぎのような認識にもとずいております。すなわち民主社会にあつては、個人が自己の意志と努力によつて、自からの環境と生

活を改善しようとするばかりでなく、更に一歩すすんで、社会、大衆の進歩のために働くという点であります。わが国建国の父孫中山先生は、「人生の目的は働くことである」という一句をもつて、われわれを指導されました。また、わが国総統蔣中正先生も、その民生主義の「そだてる」と「たのしむ」の二問題に関する著作の中において、自由時間を活用して娯楽にあててゐることを提唱し、これによつて風俗をかえ、自己の生活を改善すると同時に、社会大衆の生活の改善を企てることをもとめられました。こうした活動は自由中国の婦人も同様に重視している目標の一つといえましよう。

現在世界においては無数の人民が極端な独裁と暴政の下に圧迫をうけつつあります。これらの悲惨な運命にあえいでいる人々は、基本的自由さえも得られず、かれらには自由時間など全くなく、もとより個人の活動の場をもつことは不可能であります。かれらは圧迫され、終始敵視するような眼で周囲の人々をながめ、奉仕の精神とか自身の道徳価値というものを無視しております。このような非人道的な暴虐を私達は力をあわせて撃滅しなければなりません。

私達自由中国の婦人は、現在、「反共抗ソ」の隊列に加わり、まさにこの目標のために奮闘しているのであります。

私達自由中国の婦人は謹んで以上の言葉を日本の姉妹の方々にお贈りするとともに、皆様の御健康と御成功をお祈りいたします。

8. チェコスロバキア

◎チェコスロバキア婦人委員会

チェコスロバキア婦人委員会は、日本婦人にとって大変重要な行事である婦人週間に際して御挨拶をお送りし、御成功をお祈り致します。私達は婦人週間が国中のいろいろな団体によつて準備され祝われることを知つて大変興味深く思いました。婦人週間の諸行事が終つてからその模様を又知らせいただければとても有難いと思います。

チェコスロバキアの婦人達は、日本婦人が子供の幸福、婦人の平等、国民の福祉、そして核兵器とその実験反対のためにしていられる御努力に関するすべてのニュースに大きな関心を抱いて注目しております。このような働きをされることによつて日本の婦人は、世界中のすべての婦人に共通の望み——永久平和——の実現を推進しているわけであります。

チェコスロバキアでは、3月8日第50回国際婦人デーを祝いました。その時にはフランス、イタリア、スイス、東独、西独、ポーランド、ハンガリー、オーストリアの8ヶ国から52人の代表が集まりました。行事の終りに当り、3月11、12日にわたつて、前線的な軍備廃止について議論をし、決議を行つてこれを国連とジュネーブにある10ヶ国軍縮委員会に送りました。この決議の中に、全面的な軍備廃止の話し合いが成功するようにという皆の希望が

表明されております。

全チエツコスロバキア婦人を代表し、美しい貴国の国民の福祉のためになされている皆様の仕事に対し、重ねて心からの共感をお伝えする次第であります。

9. デンマーク

◎デンマーク全国婦人協議会

会長 エルゼ・メルテ・ロス女史

デンマーク全国婦人協議会は第12回婦人週間に際し御挨拶を送り、この週間が日本の人々と国家にとって役立つものとなりますようお祈り致します。

10. フィンランド

◎フィンランド全国婦人協議会

会長 マルギット・ボルグ・サンドマン女史

48の支部と約41万5千人の会員をもつフィンランド全国婦人協議会より、第12回婦人週間に御挨拶をお送り致します。

今回のテーマ「生活時間の自主的な設計」は、フィンランドでも特に関心と呼んで居ります。これは世界状況の如何にかかわらず世界の多くの国々に共通にある問題をあらわしているといえましょう。

フィンランド全国婦人協議会でも今年、「變動しつつある世界の婦人と家族」というテーマを中心にして会議を開きましたが、婦人が家庭と社会に対する責任を持つためには常に婦人自身の教育をすることが必要であることを痛感致しました。

11. フランス

◎フランス全国婦人協議会

書記長 S・J・マジヨレール夫人

フランス全国婦人協議会から、日本の参政権獲得記念の婦人週間に心からお祝いを申し上げます。

私達は、日本の婦人達がこれまで家庭生活の中で果しておいでになつた大きな役割について

知つておりました。がまた同時に政治生活への参加も新しい立派な役割であると存じます。何故ならば、婦人が政治的生活に参加する権利をもっている他の国々と同じ様に、このことはあらゆる面において、婦人と家族の状態を改善するからであります。私共はまたこの10年間にわたつて、年少者の肉体的精神的保護を保障し、婦人の社会的地位の向上を保障する法律を通過させるために、皆様が御努力なさつたことについて知り、皆様が私達と同じ様に、世界の人人の理解を深め平和を維持するために、あらゆる努力を払つておいでになることを知りました。

この度の第12回婦人週間に際し、日本とフランス両国の婦人が、より一層交友を深め、相互の文化の交換と婦人の社会的進歩に進んで貢献できるようお祈り致します。

私共はまた日本の婦人団体が全国婦人協議会を結成され、政治的信条を超えて、あらゆる分野にある、またあらゆる職業の婦人達を結合なさつて私達と御一緒に国際婦人協議会のために御活躍下さいませ様、希望して居ります。

12. ドイツ

◎東京ドイツ文化研究所

研究主任 パルバラ・クラフト博士

この度、日本の皆様が理想的な形で婦人週間の開催に成功されたことは、ドイツから来て居ります私にとつても御同慶にたえません。婦人週間おめでとうございます。

◎ドイツ大学婦人協会

会長 マルガ・アンデルス博士

第12回婦人週間に御挨拶を送ると共に、皆様が積極的に行動しようとして居られる力強い運動を、心から御声援申し上げます。

◎ドイツ婦人勤労者組合

会長 ヘルタ・マイアー＝リーケンベルグ

「婦人週間」が行われる機会に、私共、ドイツ連邦共和国の、「ドイツ婦人勤労者組合」に所属している諸団体から日本の婦人の皆様への、心からの御挨拶をお伝えいたします。

ドイツの婦人勤労者も、皆様方が本年度の値上げで取上げられた問題について、きわめて熱心に努力しております。私共も、自分の自由時間を確立し、自主的な生活設計を立てたいと、望んでおります。婦人は、自己を把握し得た時のみ、日常生活の多忙さにもひしがれることなく、自国民の福祉に貢献することが出来るものと存じます。従つて、私共は、皆様方が、婦人にとつてかくも重大な問題を本年度の婦人週間の主題としてえられたことに對し、心から

の祝意を表する次第であります。

◎ドイツ職業婦人連盟

会長 テイシ・ツホツケ

ドイツ連邦共和国、ドイツ職業婦人連盟は、「婦人週間」に際し、日本の婦人の皆様に、心からの御挨拶と祝意を表明するものであります。

日本が、1959年の夏以来、我々と共に、「国際有戦婦人団体連盟」に加入され、多大の関心と、心からの熱意を以て、日本の職業婦人の表位の向上につとめていられることを、心からうれしく思う次第であります。

皆様の御仕事と、その目的とが達成されることを希望いたします。

13. インド

◎インド中央社会福祉委員会委員長

全国婦人教育協議会々長 ドルガバイ・デレムツク夫人

1946年の憲法で日本婦人が始めて参政権を獲得された記念すべき4月10日を全国的に祝い、第12回婦人週間の行事に参加させて戴くことは私の大きな喜びとするところであります。

私は個人的にこの大きな行事に御挨拶を申し上げると共に、14年間という短期間になし遂げられた多方面にわたる皆様の業績に対しお祝いを申し上げたいと思います。

この週間のテーマは「自由時間の自主的な設計」ということであると伺っております。このテーマの実現には、家庭のため、個人のため、社会のため、また国家のために大きな幸福となるように、自分の時間の使い方を注意深く計画することが必要であります。私はこのための方法と手段を討論するために集まれた選ばれた婦人達の会議から、もつと明確な計画をもつた、はつきりした考えが打ち出されるように願うと共に、全国婦人会談が婦人達自身と国家の進歩と繁栄と平和のために大きな貢献をされるよう望んで居ります。

御幸福と御成功を祈ります。

◎全インド婦人会談

議長 ラカンヤ・サラン女史

1946年に与えられた婦人参政権を記念して、4月10日より16日まで第12回婦人週間が開かれることをおよこび申し上げます。

全インド婦人会談は、この行事にお祝いを申し上げると共に、更に大きな成功と一層の成果を得られるようお祈り致します。日本の婦人が、政治や社会の分野に活潑に参加され、参政権を総明に行使されていることは、まことに力強いことであります。

今回の婦人週間のテーマである「生活時間の自主的な設計」は、非常に重要な問題であり、慎重に考えねばならないことであると思います。私達婦人は自由時間を家庭のため、自分自身のため、また社会のために役に立つように計画的に使われねばなりません。私達はいかにして家庭と子供の問題を処理するか、また家事の務めを済ませると自由な時間がどの位残るかということをはつきり知つて、その自由時間を自分自身と社会の発展のために利用するべきであります。

私達は私達に課された仕事の分野はどこにあるか知らねばなりません。何故ならば私達は自分の適性と傾向を充分検討してはじめて何か実質的な仕事が出来からであります。たとえば社会事業は私達の仕事でありましょうか。もしそうだとすれば、私達は貧しい婦人や子供を教育する事に関心をもっているのでしょうか。それとも盲人のことが最も気にかかるのでしょうか。あるいは貧困階層に医療援助をしたらいいのでしょうか。又は貧しい婦人や恵まれない人や無智な人に人間らしい生活をさせるために何かしてあげられないのでしょうか。

今日私達は、日々の生活から生れる自由時間というものは、いい加減に取り上げられるべき問題ではないということを実感し始めて居ります。何故ならば、自由時間こそ私達が狭い日常の雑事に追われている自分自身を超えて、自分らしくなることが出来、又自分自身を社会のため国のために役立てる事が出来る時間であるからであります。全インド婦人会談も最近数年間、この自由時間の問題を重要視して参りました。インドの婦人達は、今では社会に対し責任を感じ、社会のために役立てることのできる自由時間の重要性を感じているということができました。

しかし、私達は自由時間について婦人の関心が更に高まるよりつとめできるだけ多くの婦人が活潑に社会の進歩に参加するよう一層努力せねばなりません。

日本婦人の皆様に対し、婦人週間の御成功のみでなく、今年が御成功の年でありますように重ねてお祈り致します。

14. イスラエル

◎イスラエル国会副議長

ベバ・アイドルソン夫人

4月10日からの婦人週間に際し御挨拶を申し上げることをまことに光榮に存じます。

日本の婦人が解放と平和のために目覚ましい成果を上げられたことを記念するこの機会に、

御挨拶を御送りすることは大変嬉しいことでもあります。私達イスラエル国会の婦人議員は、わが国における婦人のより実質的なより完全な平等のために一生懸命努力しており、特に働く母親の問題を重要視しております。

私達は、日本婦人が社会や家庭で働く婦人の地位の向上のために尽され、御成功されるようお祈り致します。皆様、皆様自身のためばかりでなく、まだ自由を得ていない世界の他の婦人のためにも立派な成果をあげられますように。

◎イスラエル大統領

ベン・ツヴィ夫人

第12回婦人週間に対し心からお祝いを申し上げます。

私達イスラエル婦人は、日本婦人がここ数年間に目ざましい前進をされたことを知っております。

日本婦人の皆様も、イスラエルの国において婦人が占める重要な地位を御承知のことと存じます。

イスラエル婦人を代表し、婦人週間の御成功と日本婦人の向上と福祉をお祈り申し上げます。

日本の婦人代表者が将来イスラエルを御訪問下されば、イスラエル婦人は大変喜ぶことでありましょう。

◎イスラエル在日公使

レヤロム・レヴィン夫人

東京で祝われる第12回婦人週間にさいしイスラエル婦人から御挨拶申し上げることを光栄に存じます。

私共は日本婦人の御業績を深い関心と賞讃を持って拝見して居ります。全国婦人会議の御成功を心からお祈り致します。

◎イスラエル全国婦人協議会

議長 ジェニー・ブルーメンフィールド夫人

日本の婦人週間のお知らせ有難うございました。完全平等の目標である参政権獲得という年来の望みの叶えられた日を記念する婦人週間に当り、日本の婦人と共にこれを祝うことは、イスラエル婦人にとって既に毎年の習慣とさえなりました。日本の婦人週間は、日本婦人にとっての大事な行事であるばかりでなく、独立とより合理的な生活のために努力しているすべての婦人にとって、意義ある行事であります。

「生活時間の自主的な設計」というスローガンは婦人週間に最もふさわしいものであります。それは、自分自身や自分の周囲のためにより多くのことをするため計画的であることの必要を

強調するものであるからです。

とても忙がしい人が、かえって時間が余計ある、自由時間さえも、暇な人より多くあるということは屢々見られることであります。

私達の住んでいる社会が必要としているものはとても多いので、そのうちの幾つかでも解決しようとするれば、計画や実施のために一生懸命働かねばなりません。

科学を平和的に利用すれば、人類の福祉のために驚異的なことができる現在、世界はどちらかといえば幸福な生活を楽しんでいるということができましよう。私達は、時間やお金をかけて、生活状態の改善、健康や教育水準の向上をすることができます。この静かなひと時に、社会がためみなく前進する必要を認識し、解決可能の仕事がたくさんあることを知つて、努力したいものです。すべての人類と共に、平和と前進と科学によつて得た成果が保持されるよう祈りましよう。将来について計画する時間が充分にあれば、私達は自分自身の希望する通りに素晴らしい世界を作ることができるのであります。

婦人週間の御成功をお祈り申し上げます。

◎イスラエル婦人労働者総評議会

イスラエル婦人労働者総評議会を代表して、4月10日からの婦人週間を御祝い申し上げるのを光栄に存じます。

日本の婦人は、ここ10年間に大きな進歩をされましたが、完全な平等の獲得まで、更に向上を続けられることを希望致します。

今年の婦人週間のテーマには、大変立派なものが選ばれました。いかなるもの前進にも1人1人の向上が先ず必要であつて、これよりも重要なものではありません。有効に用いられる自由時間は、婦人にとって、何物にもまさる資産であります。

イスラエルの304,657人の婦人を代表するわが評議会の名において、心から御挨拶を送り、皆様が地域や家庭において目標としている地位を獲得されることをお祈り致します。

◎イスラエル婦人同権協会

アンナ・ブラキヤフ博士

アジア大陸の最西端の海岸から、東のはての島国へ、イスラエル婦人同権協会は日本の婦人参政権を記念する第12回婦人週間の御成功を心から御祈り申し上げます。

1つの国の婦人の地位は、その国の文化的水準を示す確実な指標であります。日本婦人が、古い文明から1歩進んで、この分野で示された成果は、私達の尊敬と賞讃的となつております。

これらの成果は広い反響をよび、他の多くの国の婦人の地位を高める助けとなりでありましよう。

婦人参政権を毎年婦人週間という行事で祝うという日本独特のやり方は世界中のよいお手本となるであります。この行事は参政権獲得までに払われた長い努力を世間に広く認識せしめ、婦人がその権利を活用し、公的な生活に参加することを促進するものであります。

私達は、婦人に生活時間の合理化を説き、自分自身の向上と、社会への奉仕のためにこれを使うようにすすめる今年のテーマは特に結實なものであると思います。

皆様方のお仕事が他の国々へのよい刺激となりますようお祈り致します。

◎イスラエル国際ユダヤ民族主義婦人協会

会長 レベツカ・D・ソフ女史

議長 ローザ・ギノツサー女史

第12回婦人週間に際し、イスラエル国際ユダヤ民族主義婦人協会を代表して御挨拶申し上げます。

政治を動かすことが、原則として男子の手にある今日、保健、教育、レクリエーション又は一般の公益増進を通じて、地域社会の改善のために努力するのは、いつも婦人、特に組織された婦人であります。

イスラエルの私達の団体は、婦人や子供の福祉のために最善をつくし、それを通じて、地域社会の役に立つております。私達は、日本婦人も同様に建設的なよい市民活動をされますよう心から期待致します。

婦人週間の御成功を御祈り申し上げます。

15. オランダ

◎オランダ女権主義国際記録保存所

第12回婦人週間のテーマである「生活時間の自主的な設計」ということは、国によつてその解決の仕方は違つても、世界中の婦人にとつて最も重要な問題であります。

私達オランダの婦人は、日本婦人の婦人週間の御成功を心からお祈りするとともに、婦人会議の成果に期待し、それがオランダの婦人に対してもよい刺激となりますよう希望致します。

16. ニュージーランド

◎ニュージーランド全国婦人協議会

書記 メリー・ヘイマン夫人

日本の婦人が参政権獲得を記念して行う4月10日からの第12回婦人週間に際し、御祝いを申し上げることを嬉しく存じます。

「生活時間の自主的な設計」という今年のテーマは、すべての人に対して、生活時間を合理化し、自由時間を活用して、1人1人が最もよい生活をするようにという呼びかけであると思います。

婦人が地域社会に与える影響は大変大きいことを思い、私達は日本の国民全体が、自由時間を賢明に有効に使い、国の社会的、教育的、経済的な面に貢献なさるであろうことを信じます。

17. パキスタン

◎全パキスタン婦人協会

創設会長 リアカツト・アリ・カーン夫人

私個人として、又、パキスタン婦人協会を代表して、日本婦人の皆様に心からの御挨拶をお送り申し上げ、その御業績が益々御成功をおさめられますようお祈り致します。

今年の婦人週間のテーマは、最近次第に重要性を増して来た、実際的な問題であります。なぜならば世界中の婦人達がその社会的、市民的責任を自覚し、これが国家や国際政治に及ぼす影響力が大きいことを知っているからであります。しかも、私達自身の家庭の中に近代科学が入つて来て、自由な時間もふえて参りました。そして、その自由時間を最も有効に使い、自分自身や社会のために役立てるにはどうしたらよいかという問題が起つて来ました。

自由時間を最大限に活用するための知識や手段がないために、自由時間を単なる怠惰な時間としてしまつてはなりません。それでは自由時間はよいものであるどころか却つて悪いものになつてしまいます。他面において、人間にとつてはほんの短い時間でもよいから、仕事や悩みから解放されてほつとする時間、自分自身だけの思索や休息に使う時間、自分のしたいことをし創作的本能をのばす時間、精神の問題について冥想する時間、読書し、運動する時間、人間関係を深める時間、夫、子供、友人および未知の人々との個人的な関係を温める時間をもつことも、同じように重要であります。私達は身体、頭、心を育成するための自由時間を持たねばなりません。

このような人間の内面的な発展のための自由時間の重要性を強調するべきであります。

このことが今年の婦人週間のテーマに選ばれたことをまことに嬉しく思います。

◎全パキスタン婦人協会

全国委員会々長 ズベイダ・ハビブ・I・ラヒムトワラー女史

労働省の主唱で開催される婦人週間に際し日本の皆様に心から御挨拶を申し上げるのをまこと

にうれしく思います。

1946年に獲得された婦人の選挙権を記念されることはまことに結構なことであり、自分のためみんなのしあわせのために自由時間の確保を強調するテーマは時宜を得たものと思います。めまぐるしく変動する今日の錯綜した世界にあつて、婦人が有益に自由時間を設計することは我々の社会的、知的、文化的視野を向上させ、ひいては国家の進歩を助けることになりましょう。計画的に自由時間を費うことによつて、日本の婦人達は他の人々に価値というものゝ新しい意味や、発展とか進歩ということの新しい意味を知らしめることが出来ると思います。

全パキスタン婦人協会は、日本婦人が自分達の尊厳と向上と繁栄のために力を合せてなし遂げられた急速な進歩に対し、大きな関心を持つて居ります。私どもはアジアの他の国々の婦人も一翼をになつて、云い古された東洋の婦人のおくれに代つて、余り出しやばり過ぎず、我々でなく、家庭を忘れるようなこともなく、敬虔で家庭本位で、しかも子供達にとつては道徳的精神的なより所となり、このようにして新しさと同時に伝統的品位をも兼ね具えた婦人を作り上げ得ると信じて居ります。

18. ポーランド

◎ポーランド婦人連盟協同組合部

会長 イレナ・ストルツレツカ女史

ポーランド婦人を代表して御挨拶を申し上げ、日本婦人のためになされている貴局の御業績が更に成果をあげられるようお祈りし、あわせて皆様の御幸福と御健康と御発展をお祈り致します。

私達の国ポーランドと日本とは、大変遠く離れていますのに、私達が皆様の御運動とその成果について知り、またそれに敬意を表し、共感を覚えるということは、まことにすばらしいことだと思ひます。

私達は、第12回婦人週間をきつかけとして、私達の二つの国の運動の連帯性と友情の絆を強め伸ばして行きたいと望んでやみません。

私達の協同組合部について知つて載くために少しばかり私達の仕事のことをお知らせ致します。

ポーランド協同組合運動には7百万人以上の人々が参加しております。その活動は多方面にわたり、都市にも漁村にもわたつて居ります。私達は消費者協同組合、農村出荷購買協同組合、生産協同組合等をもち、また保健、住宅、酪農、園芸、貯蓄信用に関する協同組合があり、広く経済、社会、教育面を取扱つています。これらの協同組合は、規約によつて婦人組合員の仕事をしなければならぬことになつて居ります。婦人組合員は、各協同組合の中で幾つかのグ

ループを組織したり、又管理理事会や労働組合の委員会で働いて居ります。

ポーランドの協同組合運動における婦人組合員の貢献は大変重要であります。この運動の指導者として、婦人の寛容さ、公正さと実行力とは大きな役割を果たしました。現在ポーランド協同組合婦人部には2百万以上の組合員が居り、立派な成果をあげて居ります。

これらの婦人組合員達は、組合員の委員会や管理理事会、また協同組合運営委員会に婦人を参加させるよう各層の啓蒙活動を行つて居ります。

婦人の職業上の地位を高めるため、私達の組織では、その中で働きながら職業的訓練を受ける機会を作つたり、また婦人の自活相談機関を設置したり生産グループを作つて、これが数千人のポーランド婦人が職場と賃金を得る場となつています。

また婦人協同組合員は、婦人と子供が社会的にまた家庭的に必要としていることに関心を抱き、その必要を充たす方法を実施するよう努力して居り、病人や子供の世話をするためのいろいろな活動を行つて居ります。

私達の組織では、協同組合に対して近代的家庭用品の生産、サーヴィス網の増加、消費者サーヴィス — 例えば注文による買物の配達 — 等ができるようになることを教え、家内工業の講習や展覧会、洗濯施設の拡充、貸貸センター、栄養知識の普及、子供の教育等を教えます。

私達の組織ではまた平和の擁護のため、国家間の平和的共存と世界各国との友情を強めるために行われている一般の運動に参加して居ります。

今年、ポーランドの婦人協同組合は、ポーランド全国の婦人や世界各国の婦人達と共に国際婦人デー50周年を祝いました。ポーランド婦人協同組合員は、男女同権と社会における適度な役割を求めて斗い、その知識と生活と情熱と野心とを捧げた婦人運動の開拓者達に敬意を表しました。

ポーランド婦人協同組合では、この大切な記念日が世界中の婦人団体を結びつけ、全世界の平和のために働かせるような日になるように望んで居ります。同時にまたこの日が友情と連帯性と団結とを深めることを目的とした事業と斗いの源となることを希望致します。

私達は、日本の婦人協同組合員も、私達と同じ目標をもち、多くの国と友好的な関係をもつことを目的としていることを知つております。

重ねて婦人週間の御成功と皆様の御幸福を祈ります。

◎ポーランド婦人連盟(電報)

日本婦人の参政権獲得記念日おめでとうございます。私達が世界平和を心から祈っている事を日本の皆様にお伝え下さい。

19. スウェーデン

◎スウェーデン、フレデリカ・ブレーマー協会

インガー・ライオンフッド女史

日本婦人の権利と生活の向上のための立派な御運動に対し、深い関心を払うと共に、将来の御成功を切にお祈り致します。

◎スウェーデン全国婦人協議会

書記 モード・アーノルドソン女史

婦人週間のお知らせ有難うございました。4月の全国婦人会議が成功され、日本の婦人の地位を高めるための仕事が立派な成果をおさめられる様お祈り致します。

「余暇の利用」というテーマは、私共の国にとつても大きな関心事であり、殊にそれは子供について問題になつて居ります。国際婦人協議会の児童家族問題委員会は、1959年6月に「子供の余暇利用」に関する質問書を出しましたがこれがこの問題に対する回答として大いに役立つことと思つて居ります。御参考までにこの質問書の番号は「SC/6/パリ」で、パリの国際婦人協議会の事務局から取りよせる事が出来ます。

20. スイス

◎スイス全国婦人協議会

会長 ドーラ・J・リフトメイヤー・イゼリン

スイスの婦人達は毎年行なわれる日本の婦人週間に大きな関心をもっており「生活時間の自主的な設計」が今年のテーマに選ばれたことを喜んで居ります。自由時間をうまくやりくりして有益に使うという事は、私共の国にも共通な問題でありますから、婦人週間の報告書を拝見出来るようですと有難いと思います。日本婦人の啓蒙に努力していらつしやる皆様のお仕事については私共の月刊紙に載せてスイスの婦人達に知らせるつもりで居ります。

婦人週間の御成功といつかはお訪ねしたいと希んでいる美しい日本の国の皆様様の向上を心からお祈り致します。私共の国へもおいで下されば、どなたでも喜んで歓迎致します。

21. ソヴィエト連邦

◎ソヴィエト婦人委員会

ソヴィエト婦人を代表して、日本婦人の参政権獲得記念日に心から御祝いを申し上げます。私共は皆様の公的市民活動の御成功を心からお祈りし、あわせて世界平和の維持と世界各国との友好関係を推進なさる皆様の御努力に敬意を表したいと存じます。

婦人の生活の向上をスローガンとした第12回婦人週間は日本婦人の胸に暖く呼びかけ、平和があつて始めて達成できるこの高い目標のため広い婦人の結びつきを作るであります。ソヴィエト婦人は、大きな社会の力となつて居る日本婦人が、世界中の誰もが心から希つて居る平和の維持のために必要な努力を進んでつくり下さることを祈つて居ります。

私達は皆ソヴィエトと日本の婦人の相互理解を推進することが大層重要であると思つて居りますので、お互の友好関係を伸ばし広げて行きたいと希望しております。

22. イギリス

◎イギリス全国婦人協議会

会長 ジーン・ロビンス女史

イギリス全国婦人協議会は4月10日から労働省主催で開かれる日本の婦人週間に大きな関心を寄せ、今回選ばれたテーマが今日の様な時代には特に有意義なものであると思います。

イギリス全国婦人協議会を代表して御挨拶を送ると共に婦人週間の御成功をお祈り致します。

23. アメリカ合衆国

◎米国保健教育福祉省次官

ペーサ・S・アドキンス女史

参政権獲得を記念する第12回婦人週間に心からお祝いを申し上げ婦人の地位の向上のために得られた多くの記念すべき御業績に対し、およろこび申し上げます。

今回のテーマ「生活時間の自主的な設計」にアメリカの婦人は心から賛意を表して居ります。私共は家庭の主婦として又母親として或いは又勤労婦人として専門的職業婦人として、毎日忙しい生活を送つて居り、中には1人で何役もかねている婦人も沢山居ります。しかし、このように忙しい中にもかかわらず、何百万人ものアメリカの婦人達は、その地域社会において、より良い病院や学校を建てるため、医療研究の資金を集めるため、また不幸な人や貧しい人を助ける仕事を支持して働く時間を見出して居ります。

アメリカの婦人達は、また政治問題に知識を持ち、国の政治生活に参加出来るように時間も作つて居ります。

日本とアメリカの婦人達が太平洋の両沿岸で、個人の向上と社会や国家の進歩のために力を合わせるよう努力を続けてゆきたいと思ひます。この機会に日本の婦人に心からの御挨拶を申し上げる次第です。

◎アメリカ大使館広報参事官・ジョージ・M・ヘリヤー夫人

日本においても世界においても婦人の役割の重要性が増していることを示す婦人週間の催しに参加させて戴くことを光榮に存じます。私と共に世界各地にいるアメリカの婦人は、日本婦人の皆様にお祝いと心からの御挨拶を申し上げます。

◎アメリカ合衆国労働省婦人局長

アリス・K・レオボルド女史

第12回婦人週間に際し日本の婦人の皆様に心より御挨拶を申し上げます。この記念すべき道しるべとなる例年の行事は、勇気ある日本婦人の友である世界中の婦人にとって慰うべきことでもあります。

婦人の生活時間の自主的な設計を強調する今年のテーマはまことに意義あるものと思ひます。1960年というこの年にこれほど重要なものはありません。すべての自由諸国の婦人達は今日数えきれない程沢山の社会に進出できる機会を持つて居ります。しかしその一つ一つの輝かしいチャンスは、良心によつて命ぜられる責任を果すことができるよう、1日の時間を賢明に割りふることのできる婦人だけが獲得できるのであります。婦人は活動範囲が家庭の外にまで拡がったことを喜んでおり、主婦として母親としての伝統的な役割に加えて、地域社会の市民としての責任を進んで果し、子供のためにもつと良い社会を確保するために努力して居ります。

私達自由主義国家の婦人達は共通の目的をもつて居ります。私達は広い太平洋も国語の違ひの障害をも超えて、友情によつて結ばれて居ります。婦人達の協力によつて世界に平和を拡げ相互の理解を深めることもできるであります。

婦人週間が皆様のこれまでの御業績へのお祝いとなり、同時に明日への明るい展望の週間となります様お祈り致します。

◎前アメリカ合衆国労働省婦人局長

フリーダ・S・ミラー女史

4月10日より16日まで再び開催される婦人週間にお祝いを申し述べさせて戴きます。

婦人少年局と民間の有志団体とが、努力を続けて婦人週間を日本の大きな行事にしていらつしやることを知つて本当に嬉しく思ひます。

皆様も御承知のように、私はお国の婦人少年局の事業と婦人団体の成長に関心を払つて参りました。そして婦人週間に御挨拶を送らせていただくことによつて、私が引きつゞきこれらと

つながりをもつてゐることが温かく思い起されるのであります。

この意義深い目標は、婦人が自分の能力を伸ばし役立てるために、また地域社会の改善のために自由時間をもつことを強調する皆様の運動を、更に効果あるものにするのであります。

皆様のお仕事はまことに成功をもつて報いられる価値のあるものであります。

日本の皆様と今後も続けて御交誼をいたゞき、今後益々の御発展を拝見出来るよう心から希望いたします。

◎アメリカ合衆国大学婦人協会

会長 アンナ・L・ローズ・ホークス女史

参政権獲得を記念する第12回婦人週間に際しお祝いを申し上げます。今年は、アメリカの婦人も1920年に連邦憲法の修正が議会を通過し、参政権を獲得したことを記念してお祝を致します。

この記念すべき年に當り、アメリカと日本の婦人は共に有権者として参加した歴史を誇りをもつてふりかえると同時にすべての人の幸福のため、婦人の能力を充分に役立て、社会に貢献するという務めが我々に残されていることを認識しているのであります。このような仕事の多くは、その自由時間と才能とを進んで提供した有志婦人団体の手によつてすでになされて来ましたし、また将来もなされることであります。沢山の日本の婦人団体は日本婦人が責任ある市民であることを示し又、社会に対する献身的な働きを証明して居ります。その一つである日本大学婦人協会と私達は特に深い関係を持つて居ります。

また私達は国際大学婦人協会に加盟して居りこの団体は多くの国々の婦人達と一緒に、婦人の進歩を助け、高等教育を受けた婦人が社会に対する独自の責任を果すのを助けるものであります。

アメリカの大学婦人協会はこの機会に心から御挨拶を申し上げますと共に、重ねて今まで獲得された成果に対しお喜びを申し上げます。

◎アメリカ合衆国労働婦人クラブ連合会

会長 グレイス・B・ダニエルズ女史

専門的職業についている婦人の組織として最も大きく、最も長い歴史をもつ、アメリカ合衆国労働婦人クラブ連合会の会長として、174,000人の会員に代り、1960年の婦人週間に対し御祝詞を申し上げます。

私達の団体の会員は、それぞれの職業を通し、又教育活動や市民活動を通して婦人の進歩のために働いております。この会は1919年、ちょうど婦人が参政権を得る1年前に創設されましたので、日本の婦人週間が、日本婦人の参政権獲得を記念するものであることが特に興味深く思われます。

婦人週間のテーマ「生活時間の自主的な設計」ということは特に、職業をもつ婦人の共感をよぶものであります。仕事の時間の後で、自由時間をもち、会の大事な活動をするために、私達の会員は時間割を作ることの便利さを知っております。仕事の時間の後で、会員が行った地域の仕事のよい例としては、最近完了したばかりの交通安全調査があります。それは、各クラブが全国連合会本部から出した企画によつて自分の町の交通標識を調査したものであります。又、州や町の交通関係教師や交通部門の各種の役人と面接もしました。この数百にのぼる調査の結果は、今集計されており全国の交通安全増進の基礎資料となるものであります。

私達の連合会の活動について説明した小冊子が御参考になるかと思いましたので、同封致します。

昨年の夏、パリで開かれた国際有職婦人クラブ連合会の会議では、新しく加盟されたばかりの日本有職婦人クラブの方に御挨拶できてとても嬉しかったです。

電ねて、婦人週間が最も効果のある、興味深いものとなりますよう御祈り致します。

◎アメリカ合衆国キャリー・チャップマン・キヤット記念財団

会長 ジョーン・グレスナーリー夫人

私は、私達共通の目的に向つて日本の婦人がなされた前進に対して御祝いを申し上げることを嬉しく存じます。

1946年の参政権獲得を記念して4月10日から始まる第12回婦人週間に對し、心から御挨拶を御送り致します。

社会をよくするための婦人の役割を強調する今年のテーマは私達の目標でもあります。

皆様の御仕事が引つづき成功されますよう御祈り致します。

◎アメリカ合衆国国際婦人通信委員会（コミティー・オブ・コレスポンドンス）

事務局長 G・アリソン・レイモンド女史

婦人週間をお祝いしてたくさんのメツセージが届いているでしょうが、国際婦人通信委員会からも一通つけ加えさせて載せます。

私達アメリカの婦人も70年間、婦人の選挙権確立のために斗つて来ましたが、皆様と同じ様に参政権の価値を重要視して居ります。私共は日本婦人の参政権獲得を共にお祝いし、お国の進歩と発展のため働いておられる皆様の御活躍に對し心からおよろこびを申し上げたいと思ひます。

国際婦人通信委員会は今年の皆様のテーマに深い関心をもつて居ります。御承知の通り私共は92の国や地域の婦人達と密接な連絡をとつて居ります。そして私達はすべての地域で家庭や家族に対する責任を背負い頭を悩ましている婦人達が生活時間の設計について皆、同じように関心を持つて居ることを知っております。

婦人会議の討論や勧告の報告書ができるのでしたら是非拝見したいものと思います。

婦人週間の御成功と今年の御幸福をお祈り致します。

◎アメリカ合衆国農村婦人協議会

委員長 エバレット・スパングラ夫人

日本婦人の参政権獲得記念日に、アメリカ合衆国農村婦人協議会から御挨拶を申し上げます。私は特にアメリカの農村地帯の婦人達を代表し、私達が皆様の婦人週間のテーマである「生活時間の自主的な設計」の趣旨を実行していることを申し上げたいと存じます。

農村に住む婦人として、私達は先ず家事のために時間を使い、そして余暇を種々の活動に使ひます。私達は、特に青少年のための仕事や、保健、安全、又宗教などの仕事をするのが好きです。私達の会員の多くは毎週1日か2日このような仕事をし、他人を助けることに喜びを見出しております。このようにして、私達は自分自身の向上のみならず地域社会全体のために役立つております。

この婦人週間に際し最近の安全保障条約改訂で更に深まつた日米の友情を一層認識し、両国がいつまでも仲良く助け合つていくことを祈ります。

◎アメリカ合衆国民主党全国委員会婦人部

ケティー・ローチハイム女史

再び婦人週間を迎えてお祝いを申し上げる事を大変嬉しく思います。

社会の諸問題に對し婦人がもつと多く参加し責任を持つことを目的とするこの重要な第12回婦人週間に際し、皆様がお集りになる時、私達も皆様と共にあつて御声援をしていることを心におとめ下さい。世界中の婦人は私達の共通の目標である世界平和を確立し、それを維持するために、公的生活に一層多く参加し社会的な仕事の企画に進んでその役割を果たさねばならないと思ひます。

◎アメリカ合衆国 — 諸国民友好のための — 手紙交換委員会

委員長 アンナ・ロード・ストラウス女史

（元アメリカ婦人有権者同盟会長）

日米修交百周年に當る1960年の婦人週間に御挨拶をお送りすることはまことに喜ばしいことであります。

私達の住む地域社会は、そこに住んでいる婦人達を反映したものであります。ですから外国の人々の福祉に対する共感や理解も婦人の手によつて促進できるのです。

1人で何役もの責任を負っている婦人が社会福祉の仕事をするにはどうしたらいいでしょうか。

アメリカでは何かをしようとするならば、これを忙しい婦人に委せなさいと云つて居ります。というのは時間の割りふりの仕方や目的の達成の仕方を知つてきちんと働くのは忙しい婦人だからなのです。

私達は毎日毎週の仕事を新たな目で眺め人生にとって本当に重要なことのため、たとえば国内でも外国でも人々がより楽な生活をする機会を得られるようにしてあげるにはどうしたらいいかというようなことのためにもつと時間をさけないでしょうか。

日本婦人の皆様は、今日までの御業績に対しお祝いを申し上げますと共に、将来の御発展をお祈り致します。

◎アメリカ合衆国キリスト教々会全国協議会婦人連合会

会長 ウィリアム・セール・ターレス夫人

1960年の婦人週間にあたり、アメリカ合衆国のキリスト教々会全国協議会婦人連合会から御挨拶をお送り申し上げます。

1946年に日本婦人が参政権を獲得されて以来なされた素晴らしい進歩に対し、私達は深い関心を持つて参りました。責任ある地位に多くの婦人がついていることは、与えられた権利と機会をよく活用していることを示しております。

今年の婦人週間のテーマは大変面白いと思います。時間を賢明に使うことは、今日、家庭を守り、地域社会の公的生活にも参加するという二重の任務を負っている婦人が果すべき最も大事な責任であります。

児童の福祉、保健、教育などの社会奉仕の分野で有志として、又専門的な職業人として働くように促すことは最も重要であります。

アメリカ合衆国の発展に貢献している最も大きな力の一つは、自由時間を教育事業や地域社会への奉仕に捧げている婦人たちであると言えます。日本の婦人も又、日本の国の進歩ということだけでなく、日本が世界の自由諸国の一員として、永久平和樹立の一助となるよう尽す力と喜びを得ておられるのであります。

キリスト教婦人連合会は、御承知の通り、アメリカの2300の地方教会の婦人達が住宅問題、少年犯罪の問題、学校施設改善の問題、人権尊重の問題、市民の平等の問題等について一緒に働いている組織であります。

今年は、日米修交百年記念にもあたり、特に意義深く思われます。

私達は心から日本婦人にお祝いを申し上げますと共に、日本婦人の生活向上のための皆様のお働きが御成功なさるようお祈り申し上げます。

◎アメリカ合衆国全国ユダヤ婦人協議会

会長 チャールズ・ハイム夫人

全国ユダヤ婦人協議会より第12回婦人週間に御挨拶をお送りし、日本婦人の参政権獲得のお祝いを心からお喜び申し上げます。

皆様は、参政権獲得によつて大きな進歩をとげられましたし、その御業績はまことに誇るべきものであります。

また今年は両国にとつて最も意義ある日米修好百周年に当たります。この百年の間に日本は世界の工業の中心地の一つにまで成長致しました。アメリカの婦人も世界の他の婦人と同じ様に、参政権と男女同権を求めて戦いました。その戦いはまだ終つては居りませんし、現在も常に続けられて居ります。

66年前に設立された私共の団体について、少しお知らせ致します。

現在では、アメリカの240の地方に11万の会員が居ります。ニューヨークに全国協議会事務所があり、1年おきに大会を開き、役員を選出し、2年間単位の事業計画を立てます。会員の殆んどが結婚した婦人で、自由時間を各自の町や村の有志活動にあてております。会員達は、アメリカ全土の老人、青少年、身体障害者、精神薄弱者のために900以上の教育、社会福祉事業を行つて居ります。私達の計画の多くは、国境を超えて援助と指導を必要としている他の国々へまで伸びて居ります。私達は、教育、市民活動、各国間の相互理解のための世界運動に関心をもつて居り、又、会員自身のために研究グループや文化活動も致しております。

私達は、日本の皆様の御業績における長足の進歩に関心をもつて注目しており、又これを大変嬉しく思つております。そして、日本婦人の絶えざる成長と自主性の確立を期待して居ります。私共は、お互に共通の目的即ち、人類の福祉の推進、人々の相互理解、そして世界平和のために働くではありませんか。

重ねて心からお祝いを申し上げ、御繁栄と御幸福をお祈り致します。

◎アメリカ合衆国全国黒人婦人協議会

会長 ドロシー・I・ハイト女史

日本婦人の参政権獲得を記念して開催中の婦人週間に御挨拶を申し上げます。

「生活時間の自主的な設計」というテーマは大変結構なものと存じます。自分自身の向上のため社会の改善のための自由時間の活用を強調するということは、現在の様に忙しいジェット機時代にふさわしいものと思います。

私達黒人婦人もまた、全国的組織を通して経験を積み成長し、社会のためにもつと尽したいと努力して居ります。

皆様の御努力が将来の御成功となつてみますようお祈り致します。

◎ アメリカ合衆国全国夫人協議会

副会長 ドワイト・ステッテン夫人

アメリカ合衆国全国婦人会議を代表して、1946年の日本婦人の参政権獲得を記念する第12回婦人週間に心より御挨拶を御送り致します。私達はこのことを全会員に伝えました。この御挨拶も会員一人一人からの激励の言葉であります。

◎ アメリカ合衆国婦人有権者同盟

会長 ロバート・J・フィリップ夫人

第12回婦人週間にあたり、日本婦人の皆様に心から御祝いを申し上げます。

今度の婦人週間のテーマは、1960年というこの年に特に適切なものと思います。職業や市民活動において、婦人が活躍する機会が増えている現在、婦人達が自分の時間を聡明に設計することが必要となつてきているからです。

この方向に向つて、婦人会議が重要な貢献をなさるよう希望致します。

◎ 汎太平洋東南アジア婦人協会アメリカ合衆国委員会

議長 パーンヤ・キヤムペル博士

汎太平洋東南アジア婦人協会アメリカ合衆国委員会は、婦人週間に際し御挨拶を申し上げ、日本の婦人がここ数年間に成しとげられた建設的な諸事業に対して讃辞を呈したいと思ひます。同時に皆様の御運動が今後一層の御発展を遂げられます様お祈り致します。

私達は、この祝すべき価値の充分にある「参政権獲得記念週間」について、日本の皆様からお知らせを戴いたことを特に嬉しく思ひます。それは、1958年東京の国際キリスト教大学で開催された3年毎の汎太平洋東南アジア婦人協会第8回会議に私共の会員が多勢出席したことが記憶に新しいからです。

多くの日本婦人の皆様が心から歓迎して下さい、有益なお話を交し合つたことを大変愉しく思い出して居ります。

◎ アメリカ合衆国YWCA

会長 リレイス・リード・バーンズ女史

アメリカ合衆国YWCAは、日本の婦人週間に際し、心から御挨拶をお送りし、皆様が日本の婦人の福祉のためになされた大きな貢献を賞讃したいと思います。

24. ユーゴスラヴィア

◎ ユーゴスラヴィア婦人団体連盟

書記 マリア・コス女史

婦人週間に当り日本婦人に御挨拶申し上げるのを嬉しく存じます。日本は地理的にはユーゴスラヴィアから遠くはなれていますが、平和や、核武装および人類を危険にさらす核爆発実験反対の努力においては、私達と近く親しい間柄であります。

婦人が毎日暮し働いている地域社会の生活水準の全般的向上の問題については、各国を通じて婦人に共通の話題があると同じように、平和の問題も婦人にとって共通の問題であります。

ユーゴスラヴィアでは社会的な団体や地方自治体の仕事に大きな関心が払われ、これにすべての市民が参加しています。

婦人は企業内での労務管理や、地域の自治体で活躍しております。

何故ならば、こういう組織を通じて婦人が一番関心をもっている生活水準、社会政策、教育、保健、児童の施設、家庭に関する社会の援助などの諸問題が解決されているからです。

労働者の家族を援助するためのいろいろなサービスの水準を上げ促進すれば、婦人は教養を高め常識を豊かにし職業教育を受けることができるようになり、又、その自由時間を文化的なことや子供の教育に使い、社会的団体に参加したりその他の社会的活動に従事できるようになります。

今年の婦人週を迎えるに当り、日本の婦人のため、社会全体のために御成功をお祈り申し上げます。

25. 国際的団体

◎ 国際婦人協議会

第12回婦人週間に際し、国際婦人協議会から、心からの御挨拶をお送り申し上げます。

1946年に日本婦人がはじめてその意見を投票によつて表明した時以来、皆様の御発展を注目して参りました。

国際婦人協議会は、世界中の婦人が協力すれば、婦人の社会的、経済的地位を向上させることができるばかりでなく、世界の平和と安全を確立するために、国際関係を改善することについても、強い影響を及ぼし得るという信念をもっております。

◎ 国際有職婦人連合会

副議長兼連合会議長 ジーン・M・ランダー女史

日本婦人が最初の選挙権を獲得された日を記念する第12回目のお祝いが近附くにあつて、国際有職婦人連合会にかわつて心より御挨拶をお送り致します。

私は、日本婦人がこれ程短期間になしとげられた御進歩に対し賞讃すると共に、皆様が婦人のために行なわれた献身的な御業績に対してお祝いを申し上げたいと思います。

また私はこの度の諸行事に興味深く拝見し、お選りになつたテーマがまことに価値ある大切なものと思ひました。

昨年、日本にも全国有職婦人連合会が設立されましたので、私共は、今年の婦人週間をより一層身近なものに感じて居ります。日本の皆様との御交誼を持つて大変嬉しく存じて居る次第であります。

PREFACE

Japanese women exercised the first franchise in 1946, on the 10th of April. In the memory of this event, a week from 10th to 16th in April has been celebrated as Women's Week since 1949, sparked by the Women's and Minors' Bureau, Ministry of Labor.

On the occasion of the 12th Women's Week of this year, about 60 congratulatory messages were sent from abroad, from women's organizations and notable individuals of 24 countries in the world.

These messages indicate the fact that women of the world expect the Japanese women to play the important role in the democratization of their country, and moreover, peace of the world.

They were displayed at the hall of the building in which the National Women's Conference was held, and the translation of them were printed and distributed to the reporters of presses and magazines.

The Women's and Minors' Bureau herewith presents this collection of messages (originals and translations) to the public for the broader use. It is hoped that this will be of some use to those who are interested in the status of women and international understanding.

June 1960

SETSU TANINO, Director
Women's & Minors' Bureau
Ministry of Labor
Japanese Government

CONTENTS

	Page
1. AUSTRALIA	1
Australian National Council of Women	
2. AUSTRIA	1
Austrian Council of Women	
Österreichische Frauenbewegung Bundesleitung	
3. BELGIUM	3
Conseil National des Femmes Belges	
4. CAMBODIA	3
Miss Phiroun Phlech, Director of Bureau, Ministry of Social Action and Labor	
L'Association Féminine d'Entr'aide du Cambodge	
Les Femmes Cambodgiennes	
5. CANADA	4
Miss Marion V. Royce, Director, Women's Bureau, Department of Labor	
The Canadian Women's Christian Temperance Union	
The National Council of Women of Canada	
Canadian Federation of University Women	
Y.W.C.A. of Canada	
6. CEYLON	7
All Ceylon Women's Buddhist Association	
All Ceylon Women's Conference	
Lanka Mahila Samiti	

	Page
7. CHINA	10
中華婦女反共抗俄連合會	
8. CZECHOSLOVAKIA	11
Committee of Czechoslovak Women	
9. DENMARK	12
Danske Kvinders Nationalraad	
10. FINLAND	12
The National Council of Women of Finland	
11. FRANCE	13
Conseil National des Femmes Françaises	
12. GERMANY	14
Dr. Barbara Krafft, Deutsches Kulturinstitut Tokyo	
Deutscher Akademikerinnenbund e.V.	
Deutsche Angestellten-Gewerkschaft der Hauptvorstand	
Deutscher Verband Berufstätiger Frauen	
13. INDIA	15
Mrs. Durgabai Deshmukh	
All-India Women's Conference	
14. ISRAEL	17
Mrs. Beba Idelson	
Mrs. Ben-Zvi	

Mrs. Shalom Levin	
Council of Women's Organizations in Israel	
General Council of Women Workers, General Federation of Jewish Labour in Eretz-Israel	
Women's Equal Rights Association in Israel	
Women's International Zionist Organisation	
15. NETHERLANDS	22
International Archives of the Women's Movement at Amsterdam	
16. NEW ZEALAND	22
The National Council of Women of New Zealand	
17. PAKISTAN	23
Begum Liaquat Ali Khan	
All Pakistan Women's Association	
18. POLAND	24
Co-operative Department of the Polish Women's League	
Polish Women's League	
19. SWEDEN	27
Fredrika Bremer Federation	
Svenska Kvinnors Nationalförbund	
20. SWITZERLAND	28
The National Council of Women of Switzerland	
21. UNION OF SOVIET SOCIALIST REPUBLIC	28
Soviet Women's Committee	

22. UNITED KINGDOM	Page 29
The National Council of Women of Great Britain	
23. UNITED STATES OF AMERICA	30
Miss Bertha S. Adkins, Under Secretary of Health, Education and Welfare	
Mrs. Geroge M. Hellyer	
Miss Alice K. Leopold, Director of Women's Bureau, U.S. Department of Labor	
Miss Frieda S. Miller	
American Association of University Women	
The National Federation of Business and Professional Women's Clubs, Inc.	
Carrie Chapman Catt Memorial Fund, INC.	
Committee of Correspondence	
Country Women's Council, U.S.A.	
Democratic National Committee	
League of Women Voters of the U.S.A.	
Letter Writing Committee, The People-to-people Program	
National Council of the Churches of Christ in the U.S.A.	
National Council of Jewish Women	
National Council of Negro Women, INC.	
National Council of Women of the U.S. INC.	

The Pan Pacific and Southeast Asia
Women's Association of U.S.A.

National Board Y.W.C.A. of U.S.A.

24. YUGOSLAVIA ----- 42

Federation of Women's Societies of Yugoslavia

25. INTERNATIONAL ORGANIZATIONS ----- 43

International Council of Women

International Federation of Business &
Professional Women

MESSAGES FROM ABROAD FOR THE 12TH WOMEN'S WEEK

1. AUSTRALIA

AUSTRALIAN NATIONAL COUNCIL OF WOMEN

Dear Mrs. Setsu Tanino,

It is with continued interest that we hear from you regarding the 12th Women's Week. We send you our good wishes for a successful conference, and we trust that benefit will be derived from it for the people of your country.

Yours sincerely,

M. Macaulay
Hon. Sec.

2. AUSTRIA

AUSTRIAN COUNCIL OF WOMEN

Dear Mrs. Setsu Tanino,

The Austrian Council of Women sends its very warm greetings to the women of Japan for the 12th Women's Week. We very much admire how much they accomplished in a short time.

The exhibition of Japanese Graphic Art in Vienna, the visit of our Philharmonic Orchestra and the students of music at our Academy of Music surely contribute to mutual understanding, which has always been one of the aims of international women's work.

Very sincerely yours,

Henriette Hainisch

President, Austrian
Council of Women

ÖSTERREICHISCHE FRAUBEWEGUNG

Allen Teilnehmerinnen an der Frauenwoche 1960
unsere besten Grüsse !

Es ist gut, manchmal an ein Sprichwort zu denken, das sagt: Man lebt nicht nur um zu arbeiten, sondern man arbeitet um zu leben. Wieviele Menschen vergessen über der Arbeit alles! Taub und stumm gehen sie an den vielen Schönheiten vorüber, die uns Natur, Kunst und Wissenschaft bieten. Für die notwendige Arbeit im Haus, für die Familie, im Beruf, für die Gemeinschaft verschwenden sich die Frauen - für sich selbst haben sie niemals Zeit. In diesem Alltagsgetriebe verodet unser Herz, büssen wir unsere Spannkraft und unseren Frohsinn ein und vernachlässigen wir unsere Bildung.

Wir brauchen heute keine Menschen, die roboten. Dafür sind die Maschinen da. Was wir aber dringend brauchen sind Frauen, sind Mütter, die sich ihres fraulichen Wesens, ihres Wertes bewusst sind. Zur notwendigen Entfaltung unserer Persönlichkeit brauchen wir Stunden der Besinnung auf uns selbst, brauchen wir Atempausen und die Ausweitung unseres Blickfeldes.

Darum kann gar nicht oft genug betont werden, wie wichtig eine planvolle Freizeitgestaltung gerade für uns Frauen ist.

Richtige Freizeitgestaltung erhält unsere geistige und körperliche Schaffenskraft, sie belebt unser Gemüt, sie weitet unseren Horizont, sie vermittelt uns grosse Werte an Bildung und Wissen. All dies gibt nicht nur unserem eigenen Leben einen echten Sinn, es befähigt uns zugleich, davon unseren Familien, unserem Volke mitzuteilen. Dieser Gedanke allein sollte für recht viele Frauen ein Ansporn sein, von der Freizeit und ihrer Auswertung den besten Gebrauch zu machen.

Wir begleiten Ihre Tagung mit den
aufrichtigsten Erfolgswünschen!

Gilda Götzen,
chargée des affaires
étrangères

Lola Solar, MP
présidente

3. BELGIUM

CONSEIL NATIONAL DES FEMMES BELGES

Le Conseil National des Femmes Belges et les 33 Sociétés féminines qui lui sont affiliées, qui, ensemble et depuis 1905, ont lutté pour l'émancipation politique, sociale et économique de la femme en Belgique, se réjouissent de voir célébrer par le WOMEN'S & MINORS' BUREAU, à l'occasion de la 12ème Semaine de la Femme, la commémoration de l'acquisition du droit de vote par la femme japonaise.

A ce message de sympathie, ils ajoutent leurs meilleurs vœux pour la réussite de cette manifestation à laquelle ils s'associent en pensées et prient les organisatrices de croire à l'assurance de leurs sentiments de cordiale solidarité.

Président: Mlle N. WIENER
Secrétaire Générale:
Mme Y. de WERGIFOSSE

4. CAMBODIA

MISS PHIROUN PHLECH

Dear Mrs. Setsu Tanino,

I shall always remember the kind welcome you gave me when I met you in your office in December 1958. As I did last year, I now send you and all Japanese women my best wishes for a happy and successful Twelfth Women's Week.

The women of Cambodia and myself follow with real interest all that you do in your beautiful country to promote the happiness of the Japanese people and a better understanding between the men and women of this world.

Yours sincerely,

(Miss) Phiroun Phlech
Director of Bureau,
Ministry of Social Action
and Labor

L'ASSOCIATION FEMININE D'ENTR'AIDE DU CAMBODGE

Madame la Directrice,

"C'est avec le plus vif intérêt que je renouvelle à l'occasion de la 12ème Semaine des Femmes du Japon l'expression des sentiments amicaux de toutes les femmes cambodgiennes. Nous espérons que résultats de vos activités au cours de cette 12ème Semaine ne seront pas moindres que les précédents et que dans tous les pays, se développe de plus en plus la participation active des femmes dans tous les secteurs sociaux et politiques. J'ai beaucoup de plaisir à formuler en tant que Présidente de l'Association Féminine d'Entr'aide du Cambodge et au nom de toutes les femmes cambodgiennes, mes vœux très sincères de succès et de prospérité pour toutes les femmes japonaises".

FEMMES CAMBODGIENNES

Madame la Directrice,

"C'est avec beaucoup de joie que les femmes cambodgiennes, comme l'année passée, adressent leurs amicales pensées aux femmes japonaises à l'occasion de leur Douzième Semaine qui se tiendra à Tokyo le 10 Avril 1960. Elles prient leurs sœurs japonaises de croire à toute leur sympathie et leur souhaitent un brillant succès dans leur mission de femmes, en tant qu'épouses, mères et citoyennes".

5. CANADA

MISS MARION V. ROYCE

Dear Mrs. Tanino:

In 1960, beginning a new decade, it is interesting to learn once again of your Women's Week Celebration, and what an intriguing theme you have chosen! The two ideas implied in so few words touch the very essence of responsible living in the world of today.

It is not an easy world to live in. The pace and complexity of social change staggers us and we are harried by the unrelenting

pressures of daily life. The challenge each to make her own time schedule is like a shot in the arm; it "stabs us broad awake."

Your theme is a call to independence of judgment and action; each is to make her own schedule. To respond will be to break with the traditional role of inferiority and dependence so often laid upon women and accept one's inheritance as a person, an equal citizen before the law.

I am happy to send you warm greetings from the Women's Bureau of the Department of Canada. We hope that your twelfth observance of Women's Week may surpass your highest expectation in awakening women's interest in the betterment of the community and all that means in personal growth and acceptance of social responsibility.

Yours sincerely,

Marion V. Royce,
Director,
Women's Bureau.

THE CANADIAN WOMAN'S CHRISTIAN TEMPERANCE UNION

Dear Mrs. Setsu Tanino;

The Canadian Woman's Christian Temperance Union wish to extend to the women of Japan congratulations and good wishes for your 12th Women's Week which is to be held April 10th, 1960, to commemorate the first practice of voting by Japanese women in 1946.

Your theme, "Make time schedule of your own", is intriguing and places a responsibility on each to plan to have free time for improvement of oneself and the betterment of the community. This has been announced in our National magazine, "White Ribbon Tidings", to promote interest.

The members of the W.C.T.U. in Canada wish you a most successful gathering and trust you will be greatly encouraged by your efforts.

Sincerely yours,
(Mrs. I.H.) Perigoe.

THE NATIONAL COUNCIL OF WOMEN OF CANADA

Dear Madam:

The National Council of Women of Canada, comprised of twenty-three national women's organizations, and Local Councils in fifty-seven cities and towns, sends cordial greetings to the women of Japan on the occasion of your 12th Women's Week.

The theme of the Week, "Make time schedule of your own", is one that is applicable and would be very helpful to women in every country. We are very interested to learn of the plans for the Week and wish every success to all who are working for them.

Yours sincerely,

Mrs. G.D. Finlayson,
National President.

CANADIAN FEDERATION OF UNIVERSITY WOMEN

Dear Mrs. Tanino:

Members of the Canadian Federation of University Women extend their warmest greetings to the women of Japan on the occasion of the observance of the Twelfth Women's Week.

It is fitting that from the ancient culture of the Orient comes a timely reminder to the modern world of the value of setting aside a period of free time for self appraisal and self improvement, and also for service to the community. We are grateful to you for this reminder.

Best wishes for a very successful and rewarding Women's Week.

Sincerely,

Margaret E. MacLellan
Chairman
National Committee on
Status of Women

YOUNG WOMEN'S CHRISTIAN ASSOCIATION OF CANADA

Dear Mrs. Tanino:

The YWCA of Canada sends greetings to the women of Japan on the occasion of the 12th Women's Week.

We trust that if through this week you are able to devise means of helping women to make a time schedule of their own that fulfills the purposes you outline and in doing so allows for living lives less hectic than we seem to be able to achieve in our country, I know the women of Canada would be grateful for any of your learnings.

With best wishes,

Yours very sincerely,

Mrs. Rylie Smith,
President.

6. CEYLON

THE ALL CEYLON WOMEN'S BUDDHIST ASSOCIATION

Dear Sisters of Japan,

It gives us much pleasure to send you Greetings and Good Wishes for the twelfth Anniversary Celebrations of Women's Week which commemorates the winning of the right to vote by the women of Japan.

The right to vote is one of the most useful and powerful privileges women can possess. It transforms the weakest into someone to be reckoned with. But like fire, which could be man's best friend or bitterest enemy, the vote must be used wisely to produce good and bring about progress, and not be wantonly used.

The women of Ceylon have enjoyed franchise since 1931. It is after many years that the vote is being used intelligently. If intelligently used, women would be able to achieve and create the happy world they want.

We wish your celebrations every success.

(Lady Rajapakse)
PRESIDENT
All Ceylon Women's Buddhist
Association.

ALL-CEYLON WOMEN'S CONFERENCE

The All-Ceylon Women's Conference, representing 22 women's associations, once again offers its congratulations and good wishes to the women of Japan on the occasion of the 12th anniversary of their attainment of the franchise.

This annual celebration is a reminder of the importance of the woman's vote and the power which is in her hands to influence the course of events in the shaping of a better society.

Although laws can be passed quickly, social attitudes change slowly, and women can use their time and their talents to bring about changes that can be effected rapidly, as well as those which can only be made over a long period of time.

We admire the dedicated spirit of the Japanese women who are considering, during Women's Week, how to use their time to the best advantage both for the development of their own personality, and for the progress of the community as a whole.

We wish them all success in this admirable programme.

LANKA MAHILA SAMITI

We are glad that the women in Japan are now able to exercise the Vote. Women in Ceylon obtained this right with the granting of Universal Franchise in Ceylon in 1930. Since then women have been able to vote as well as to stand for all offices both in the Government and local bodies.

We are interested in your theme for the 12th Women's Week "Make time schedule of your own", with its emphasis on reservation of leisure time for improvement of oneself and betterment of the community.

Our Association, the Lanka Mahila Samiti, has been in existence for 30 years and it was primarily intended to improve the home and family by organising women's groups where problems dealing with these subjects could be discussed by rural women. Today we have centres in about 1,500 villages and a membership of roughly 150,000.

Perhaps your members will be interested to know that we have a Training Centre where 100 workers, or as we call them Sevikas, are trained every year. These sevikas are trained to impart fundamental education to the members in the villages and organise classes in sewing, nutrition and cookery, food production, handicrafts and cultural activities. Our Government services are very good and these sevikas act as liaison officers between the Government and the villagers and obtain the facilities available of which the members are often ignorant.

Our village members are mostly peasants who work in the fields but they have learned to use their leisure time at our centres where fundamental education is stressed. I think your own members in Japan could easily plan similar programmes.

I enclose a short history of our Movement so that you will know the work we have done and continue to do to raise the living and economic standard of our people.

The Lanka Mahila Samiti wish the Women's Week all success and hope the women in Japan will greatly benefit from all the meetings planned in connection with it. We hope that they will soon be on an equal par with other countries where women have achieved a high status.

Mrs. F.B. de Mel,
Hony. General Secretary,

On behalf of the Executive
Committee - Lanka Mahila
Samiti.

7. CHINA

中華婦女反共抗俄連合會

日本勞働省婦人少年局轉日本婦女姊妹們惠鑒

從敝國駐貴國大使館轉來 貴國勞働省婦人少年局2月15日的一封信，我們知道 貴處將於4月10日起，舉行第12屆婦女週、藉以紀念1946年日本婦女取得選舉的權利。我們又知道您們此次如何利用休閒時間以改善自己的生活群衆的福利為婦女週的中心題目。

我們對於 貴處所倡導的這種極有意義的活動，至表欽佩，並衷心祝賀貴處各種活動的完全成功。

我們認定這種活動是極有意義的原因是基於一種認識，就是說在民主的社會中間，個人不特要憑他自己的意志和努力，來改善自己的環境和生活，並且還要進一步為着社會群衆的進步而服務。敝國國父孫中山先生用「人生以服務為目的」一句話，教導我們。敝國總統蔣中正先生在他的有關民生主義的「育」和「樂」兩問題著作中，特別注重休閒時間正當娛樂的提倡，以來移風易俗，改善自己的同時也改善社會群衆的生活。這種活動可以說也是自由中國婦女所注重的目標之一。

抑有進者，當前世界上有無數的人民，被極權暴政所控制。遭遇這種悲慘命運的人們，他們得不利基本的自由，他們根本沒有休閒的時間，更不能把握自己的活動。他們被迫隨時用敵對的眼光，看周圍的人們，無視服務或利他的道德價值。這種反人性的殘暴，我們應該合力予以擊毀。我們自由中國婦女目前參加反共抗俄行列，就是抱着這種目標而奮鬥的。

我們自由中國婦女謹以以上的幾句話，奉陳於日本姊妹們之前，並祝僑們的健康與成功。

中華婦女反共抗俄聯合會啟

8. CZECHOSLOVAKIA

COMMITTEE OF CZECHOSLOVAK WOMEN

Dear Japanese Sisters,

The Committee of Czechoslovak Women sends you the heartiest greetings and wishes of good results of "Women's Week" which is an outstanding event in the life of women of Japan. We read with great interest the report in which you write us that the celebrations of "Women's Week" are celebrated in all country and how the organisations make the preparations. We shall be very grateful if we can receive the information about the course of the celebrations after they will be finished.

Our women follow with great attention all news about the work of women of Japan for the happiness of their children, for the equality of women and for wellbeing of Japanese people, about their effort against atomic and nuclear weapons and tests. By this effort women of Japan support the realization of desire which is common to women of all world - the lasting peace.

We in Czechoslovakia celebrated the 50th anniversary of International Women's Day, March 8th. In our celebration took part 52 delegates from 8 countries: France, Italy, Switzerland, German Democratic Republic, German Federal Republic, Poland, Hungary, Austria. At the end of the celebrations we held discussions on the total and general disarmament March 11-12, and the resolution was passed and sent to the UN, and to the Committee of 10 Nations for Disarmament in Geneva. In this resolution a common wish is expressed - to reach success in the negotiations on total and general disarmament. We enclose the resolution for your information.

Dear Friends, please accept once more, our sisters' greetings which we send you on behalf of all Czechoslovak women and our sympathies for your work done for the happiness of your beautiful country.

President of the Committee
of Czechoslovak Women,
Vice-President of the
National Assembly.

9. DENMARK

DANSKE KVINDERS NATIONALRAAD

Dear friends,

The National Council of Women in Denmark sends you best greetings for your 12th annual Women's week and hope it will be of great use to your people and your country.

Sincerely yours
Else-Merete Ross
president.

10. FINLAND

THE NATIONAL COUNCIL OF WOMEN OF FINLAND

The National Council of Women of Finland with its 48 member organisations, about 415,000 members, sends its best greetings to the Japanese women when celebrating their 12th Women's Week.

The theme for the coming Women's Week "Make time schedule of the your own" is noted here with special interest. It is a token of problems, which seem to be worldwide and common to many countries in spite of situation in the world's map.

We in NCW of Finland have had this year meetings around the theme "Woman and family in a changing world" and we found that the responsibility of women both for their family and the community requires continuously much education among women themselves.

Yours very sincerely

Margit Borg-Sundman
president

Saara Rantanen
secretary

11. FRANCE

CONSEIL NATIONAL DES FEMMES FRANCAISES

Chère Madame,

Le Conseil National des Femmes Françaises tient à vous adresser ses bien vives félicitations à l'occasion du dixième anniversaire de la loi accordant le vote aux femmes du Japon.

Nous connaissons la grande part que les femmes de votre pays ont eu depuis toujours dans la vie de la famille, mais leur participation à la vie politique est une chose nouvelle et bienfaisante puisque cela a permis, comme dans tous les autres pays où cette réforme a été introduite, d'améliorer les lois relatives à la situation des femmes et de la famille dans tous les domaines.

Nous savons tout le travail qui a été fait pendant ces dix années pour faire voter des lois assurant l'amélioration de la protection physique et morale de la jeunesse et pour la promotion sociale des femmes. Nous savons aussi que, tout comme nous, vous faites tous vos efforts pour améliorer la compréhension entre les peuples du monde entier et pour maintenir la paix.

Nos vœux pour ce dixième anniversaire et pour le Mois de la Femme sont que: grâce à la rapidité des communications et à la multiplication des moyens d'information les femmes de nos deux pays puissent se connaître davantage et s'enrichir mutuellement de l'apport de leur culture et de leurs progrès sociaux. Nous souhaitons aussi que vos associations féminines puissent se réunir pour former un Conseil National Japonais qui joigne les femmes de tous les milieux et de toutes les professions en dehors de toute politique et qui travaille nous dans le Conseil International des Femmes.

Veuillez agréer, chère Madame, l'assurance de nos sentiments de vive sympathie.

Madame S.J. MAJORELLE
Secrétaire Générale du
Conseil National des Femmes
Françaises.

12. GERMANY

DR. BARBARA KRAFFT, DEUTSCHES KULTURINSTITUT TOKYO

Es ist mir eine grosse Freude und Ehre, Ihnen als Gast aus Deutschland für das Gelingen ihrer Veranstaltung "Die Woche der Frau" die besten Wünsche auszusprechen.

Fujin-shukan Omedeto Gozaimasu!

DEUTSCHER AKADEMIKERINNENBUND E.V.

Dear Madam,

The very best wishes from the German Association of University Women for the 12th Women's Week and the courageous campaign the women of your country intend to lead.

Our member Ingeborg Aumüller will arrive in Tokyo in one of the next weeks to tell you personally with how much sympathy the German University Women accompany your most zealous endeavours.

Sincerely yours

Dr. Marga Anders

DEUTSCHE ANGESTELLTEN- GEWERKSCHAFT

Die Gruppe der weiblichen Angestellten in der Deutschen Angestellten-Gewerkschaft der Bundesrepublik Deutschland und Berlin nimmt die "Woche der Frau" zum Anlass, den japanischen Frauen die herzlichsten Grüsse zu übermitteln.

Auch die weiblichen Angestellten in Deutschland beschäftigen sich sehr intensiv mit den Problemen, die in diesem Jahr über Ihren Veranstaltungen stehen. Auch sie wollen

sich ihre Freizeit gestalten und selbständig die Planung ihres Lebens übernehmen. Wir gratulieren Ihnen, dass Sie in diesem Jahr diese gerade für die Frauen so wichtigen Themen für die "Woche der Frau" gewählt haben, denn nur, wenn die Frauen zu sich selber zurückfinden, erliegen sie nicht der Hetze des täglichen Lebens, und nur so können sie zum Wohle ihres Volkes wirken.

Mit vorzüglicher Hochachtung
Deutsche Angestellten-Gewerkschaft
Der Hauptvorstand
gez. Herta Meyer-Rickenberg

DEUTSCHER VERBAND BERUFSTÄTIGER FRAUEN.

Der Deutsche Verband berufstätiger Frauen in der Bundesrepublik Deutschland sendet den Frauen Japans in aufrichtiger Verbundenheit zur

"Woche der Frau"

seine Grösse und guten Wünsche.
Wir freuen uns ganz besonders, dass seit dem Sommer 1959 auch Japan Mitglied unsere International Federation of Business and Professional Women ist und verfolgen mit grossem Interesse und herzlichster Anteilnahme die Bestrebungen um die Förderung der berufstätigen Frau in Japan. Ihrer Arbeit und Ihren Zielen gelten unsere besonderen Wünsche.

Tisi Zschoke
Präsidentin

13. INDIA

MRS. DURGABAI DESHMUKH

I deem it a great privilege to associate myself with the celebration of the 12th Women's Week, which is organised on a nationwide basis by the Women's and Minors' Bureau of the Ministry of Labour of the Government of Japan to commemorate the Women's Suffrage Day which falls on the 10th April '46 when the women of Japan exercised their franchise for the first time granted to them

by the Constitution which was passed in 1946. I offer my greetings personally to this great organisation and congratulate them for the many-sided achievements which they have had during this short period of 14 years.

The theme set for this week, as I understand, is "Make Time Schedule of Your Own." This requires a very careful planning of your time in a way which will be of greatest benefit to the home, to the self, to the community, and to the Nation. I hope that out of this gathering of the distinguished women assembled here to discuss ways and means some very clear thinking with a clearer plan will emerge, and the National Conference of Women of Japan will make greater strides in their march towards progress, prosperity and peace to themselves and to the Nation. I again wish them good luck and God speed.

Durgabai Deshmukh
Chairman, Central Social Welfare Board
Chairman, National Council for Women's
Education

ALL INDIA WOMENS CONFERENCE

We are very glad that the women of Japan are going to celebrate their 12th Women's Week from 10th to 16th April, 1960 in memory of the women suffrage which was granted to them in 1946. The members of the All India Women's Conference and I congratulate our Japanese sisters on the coming event and also send our best wishes for greater success and further achievements. It is very heartening to note that they have been actively participating in the political and social fields of their country and have been intelligently exercising their right to vote.

The theme set for the 12th "Women's Week" - "Make time schedule of your own" - is indeed very vital and requires serious deliberation. We women have to plan our time in a way which is of the greatest benefit to the home, the self and the community. We have just to see how we can manage the home and the children and how much spare time our domestic duties leave us. This spare time has to be utilised for the development of the self and the community. We must know where our sphere of work has to be, for we can do something substantial only after we have studied our aptitude and inclination. Is social work that

sphere of work? If so, are we interested in teaching poor women or children; do the blind attract us the most; can we provide medical aid for the needy; can we do something for destitute women, backward suppressed human beings and the ignorant who can be made to 'live'?

We all have started realising today, the leisure that our daily life leaves us, cannot be casually treated because it is during our free time that we can really project ourselves beyond our narrow, routine selves and give of us to society as well as to the country. In recent years the All India Women's Conference has also been laying stress on this. We are proud to say that our women now feel their responsibilities towards the community and the importance of the time which they can spare for it.

However, we have to initiate more and more women to it, till we know that the greatest number is actively participating in the progress of our society.

Once again, we convey our best wishes to our Japanese sisters, not only for a successful week but also for a very successful year.

14. ISRAEL

MRS. BEBA IDELSON

Dear Friends,

I consider it a pleasure and a privilege to have the opportunity to greet you on the occasion of the Women's Week which you will celebrate on April 10, 1960.

It is a special joy to greet the woman of Japan on an occasion which marks such remarkable achievements in her struggle for emancipation and equality. We women members of the Knesset of Israel, work hard to gain ever truer and fuller equality for the women in our country, putting a special emphasis on the status of the working mother.

We wish you much success in your efforts for the betterment of the position of women at work, in the community and in the family. May you succeed for your own sake and for the sake of

all women in the world who have not yet gained their freedom.

Sincerely,

Beba Idelson, M.K.

MRS. BEN-ZVI

I am glad to learn of the celebration of Women's Week in Japan, now in its twelfth anniversary.

We in Israel are aware of the remarkable advances which the women of Japan have made during that period.

I believe that the women of Japan have come to know of the important place which women occupy in the State of Israel. It is with pleasure and sympathy that in the name of the women of Israel I extend our best wishes for the success of this Women's Week and for the progress and welfare of the Women of Japan.

I am sure that it would give the women of Israel much satisfaction to see a representative of the Women's Week movement of Japan pay their visit in Israel one day.

MRS. SHALOM LEVIN

It is a pleasure and an honour to convey the Israel Women's greetings to the Women of Japan on the occasion of the Women's Week to be celebrated in Tokyo as of today.

We are following with interest and admiration the achievements of Japan's women. - My very best wishes of success to the National Conference of Women in Japan.

(Mrs.) Shalom Levin

COUNCIL OF WOMEN'S ORGANIZATIONS IN ISRAEL

Dear Mrs. Tanino,

We thank you for your letter of February 15th, notifying us of the coming Women's Week in Japan. It has already become a

tradition of our Council to associate ourselves in spirit with the women of your country on the week which marks the fulfillment of a long-cherished desire for the acquisition of that final sign of complete equality: the vote. Women's Week in Japan has become one of the outstanding events of the year for Japanese Women and indeed for all women who strive for independence and for a more rational way of life.

"Make time schedule of your own" is a most suitable slogan for Woman's Week, for it emphasizes the necessity of planning in order to get more things done for oneself and for those around us. It is often noted that a very busy person has more time - even more time for leisure - than one who is doing comparatively little. The needs of the community in which we live are so many that if want to meet only some of them, we have to work hard, both in planning things and in getting them done.

The world is now enjoying a comparatively happy phase, when science, if harnessed to the needs of peace, could do wonders for the well-being of all mankind. We can permit ourselves the luxury of devoting time and money to the improvement of living conditions, of raising the general standard of health and education. Let us profit from this quiet interval to make the community around us aware of the need continuous advancement and conscious of the vast possibilities at its disposal. Together with all Mankind let us pray for Peace and Progress and the preservation of all the achievements that learning and science have given us. If we are given enough time to plan our future, - what a wonderful world we could mould to our own desire.

With every good wish for the success of the coming Women's Week,

I am, yours sincerely,

Jenny Blumenfeld

GENERAL COUNCIL OF WOMEN WORKERS

Dear Friends,

I am honoured to greet you on behalf of the Council of Women Workers in Israel on the occasion of the celebrations of the Women's Week on April 10th, 1960.

The women of Japan have achieved much in the past decade and it is our fervent hope that they shall go from success to success in their struggle for full equality.

You have chosen a most laudable theme for the celebrations this year - what can be of greater value than self-improvement, an integral part of all progress. Leisure time well used can become a priceless asset to the woman.

In the name of my Council, representing 304,657 women in Israel I send you our best wishes. May you attain the status you aim at at work, in the community and in the family.

Yours sincerely,
Yehudit Simhonit.

WOMEN'S EQUAL RIGHTS ASSOCIATION IN ISRAEL

Dear Madam,

Across the Continent of Asia, from its extreme Western shores to its Far Eastern Islands, the Women's Equal Rights Association in Israel sends its cordial wishes for success to Japanese Women celebrating the twelfth Women's Week, which commemorates the granting of suffrage to women of their country.

The Status of Women in a country is an infallible indication of its cultural standard. Your attainments in this field, evolved from your ancient civilization, evoke our respect and admiration.

These attainments will have wide repercussions and will help to raise the Status of Women in many other countries.

Your very original idea of celebrating the granting of suffrage to women by an annual Women's Week may well serve an example the world over. It provides an opportunity for publicly emphasizing the long struggle which preceded the granting of suffrage and for prompting women to use their rights and take an active part in public life.

We admire especially the theme chosen for this years celebrations which encourages women, by a rational division of time, regularly to apportion some hours for self improvement and for service to the community.

May your ideas serve a stimulus to other countries.

Sincerely yours,

Dr. Anna Brachyahu
Women's Equal Rights
Association in Israel

WOMEN'S INTERNATIONAL ZIONIST ORGANISATION

Dear Friends,

It gives us great pleasure to extend to the women of Japan greetings on behalf of the women of the WIZO Organisation in Israel on the occasion of the Twelfth Women's Week.

While men, as a rule, tend to take the upper hand in the waging of politics, it is invariably the women, and especially organised women, who wage the daily struggle for the betterment of the community - be it through the provision of health services, educational and recreational facilities or general public improvements.

As our Organisation in Israel does its utmost for the well-being of the women and child, and through them - the community - we appreciate and heartily welcome your call to the Women of Japan to similar efforts, which are the best guarantee of constructive and good citizenship.

Our best wishes for a very successful and fruitful Women's Week.

REEBECCA D. SIEFF
PRESIDENT

ROSA GINOSSAR
CHAIRMAN

WOMEN'S INTERNATIONAL ZIONIST ORGANISATION

15. NETHERLANDS

INTERNATIONAL ARCHIVES OF THE WOMEN'S MOVEMENT AT AMSTERDAM

The subject of the twelfth women's Week in Japan: "Make time schedule of your own" is of great importance to all women in the world, however different the solution of this problem may be for each country and for each woman individually. The women of Holland are sending their best wishes to the women of Japan for the success of their Women's Week and are looking forward to the results of the conference, which may also stimulate the women of Holland to give further thought to this subject.

16. NEW ZEALAND

THE NATIONAL COUNCIL OF WOMEN OF
NEW ZEALAND

Dear Mrs. Tanino,

As commencing on the 10th April 1960, the women of Japan will, for the following week, commemorate the 12th anniversary of their right as free citizens to vote, the National Council of Women of New Zealand(Inc.) are happy on such an auspicious occasion to send best wishes and congratulations.

Your chosen theme "Make time of schedule your own" is a challenge to all to so arrange and use their leisure time so that the greatest good may come to the individual; believing that women can wield a tremendous influence in the community, we trust by your example that all the citizens of Japan will contribute, through wise and worthwhile use of their free time, towards improvement in the social, educational and economic life of the nation.

Fraternal Greetings

Yours Sincerely

Mary Hayman

Dominion Secretary

17. PAKISTAN

BEGUM LIAQUAT ALI KHAN

Both personally and on behalf of the All Pakistan Women's Association, I send friendly greetings to our sisters in Japan; and warmest good wishes for the continuing success of the splendid work they are doing.

The theme for your special attention this year is an increasingly important and practical one, since more and more women in all our countries are realizing the social and civic responsibilities they have, as well as the influence it is in their power to exercise over national and international affairs. Moreover, with advance of modern science into our very homes, more leisure has become possible; and the problem now arises as to how best that leisure can be preserved and used so as to create individual development for the benefit of one's self, as well as that of the community in which we live.

It is important that leisure should not degenerate into mere "idleness" for want of better knowledge and facilities in using it to the fullest advantage, otherwise it might prove a curse instead of a blessing. On the other hand, it is equally important for all human beings to get away from their work and worries even for brief periods, to have time to themselves for privacy, thought and relaxation; to have time for developing personal interests and creative instincts; to have time to meditate upon things of the spirit; to read, to exercise; to cultivate human relationships; time to devote to personal companionship with husbands, children, friends and strangers. We must have time and leisure to grow in body, mind and spirit.

The importance of time and leisure for this inner development needs emphasis and attention; and I am glad to find it is made the theme of your celebrations this year.

Begum Liaquat Ali Khan

ALL PAKISTAN WOMEN'S ASSOCIATION

On the occasion of the Women's Week, sponsored by the Ministry of Labour in Japan, I have great pleasure in sending our cordial greetings and sincere good wishes to our sisters in Japan. You will commemorate the right to vote granted to Japanese women in 1946 and it is appropriate that the theme is on the reservation of free time to be used for the improvement of one self and the betterment of the community. In the complex, fast moving world of today, leisure profitably employed by women, can change for the better our social, intellectual and cultural outlook, which will be reflected in national progress. By using free time on a planned basis, the women of Japan will inculcate in others a new sense of values and a new sense of development and progress.

The All Pakistan Women's Association are greatly interested in the rapid strides made by the women of Japan in their co-operative efforts for their dignity, advancement and prosperity. We sincerely trust that other women of the East will take a leaf out of the book so that the proverbial backwardness of Oriental women will be displaced by an outlook that do not make women too forward, selfish and undomesticated, but rather God-fearing, homely and the fountain head of moral and spiritual values in their children, thus combining progress with the traditional dignity of Women.

ZUBEIDA HABIB I. RAHIMTOOLA

18. POLAND

CO-OPERATIVE DEPARTMENT OF THE POLISH WOMEN'S LEAGUE

Dear Sisters,

On behalf of Polish women we wish to convey to you our best greetings and wishes for further achievements in your work carried on for the good of Japanese women. At the same time we wish you much luck and all the best in your personal life, we wish you much health and gaiety.

We appreciate very highly the fact we are in touch with you and we know about your work and results in spite of such an immense distance between our two countries and we have reverence and sympathy for your activities.

It is our desire to tighten and develop the bonds of solidarity and friendship between our two movements and we think the 12th anniversary of the first voting by the Japanese women is the most opportune moment for this.

In order to acquaint you with our activities in the co-operative field we are glad to give you some information about our work.

The co-operative movement in Poland affiliates over seven million members. Its activities are many sided and they cover both towns and the country side. Thus, we have consumer co-operatives, rural supply and purchase co-operatives, productive co-operatives as well as health, housing, dairy, market-gardening, saving-and-credit societies which conduct a wide economic and social and educational activities. All these co-operatives are obliged by their statutes to conduct work amongst women co-operators. Women co-operators are organized in circles in the co-operative societies or they work in commissions existing with the supervisory councils and their unions.

Women co-operators' contribution to the achievements of the co-operative movement in Poland is very important. The leadership of the movement have often emphasized their generosity, fairness and effectiveness. At present there are more than two million members in the organization of Polish women co-operators and they achieved great results in their work.

Polish women-co-operators have run various forms of propaganda aiming at women's participation in the member's committees, supervisory councils and boards of the co-operative societies.

In order to safeguard women's in their professional work our organization has often caused that women are trained in the course of their work as well as it initiated the establishing of self-aid service and productive teams where thousands of Polish women found employment and pay.

Polish women co-operators are concerned with the social and home needs of women and of their children and they aim at providing means by which they can be satisfied. They run the activities in order to take care of ill and children.

Our organization shows the co-operatives the possibilities of development of the production of modern household equipment, of an increase of servicing network, of better organization of consumer's service, like delivery of goods purchased by orders, courses and shows in better housecraft, further provision of laundries, hiring centres, furthering knowledge of nutritious values, children's education, etc.

Our organization always takes part in general enterprises carried on for defence of peace, for peaceful coexistence between nations and for tightening bonds of friendship and brotherhood all over the world.

This year Polish women co-operators, together with all Polish women and with women of all countries celebrated the 50th anniversary of the international Women's Day. Polish women co-operators have paid homage to the pioneers of the women's movement who devoted their knowledge, life, enthusiasm and ambitions to the fight for equal rights for women and for their proper role in the community.

The Polish women co-operators with this important anniversary to be an event, joining all the women's organizations in the world and to make them work for peace the world over. At the same time we would like to this Day to be a source for further work and fight aiming at closer ties of friendship, solidarity and unity of action.

We know well, that you, the Japanese women co-operators, have the same aims and that it is your end to maintain friendly relations between nations.

Once again we wish you much success in your work and much luck in your lives.

POLISH WOMENS LEAGUE

OUR BEST CONGRATULATIONS TO JAPANESE WOMEN ON OCCASION OF THE ANNIVERSARY OF WINNING OF RIGHTS TO VOTE STOP PLEASE CONVEY TO JAPANESE WOMEN OUR WARMEST WISHES FOR PEACE THROUGHOUT THE WORLD

19. SWEDEN

FREDRIKA BREMER FEDERATION

Deeply interested in your remarkable campaign for the improvement of the rights and life of the women in your country, we send you our heartiest greetings with many hopes of further success.

Fredrika Bremer Federation
Inger Leijonhufvud

SVENSKA KVINNORS NATIONALFÖRBUND

Dear Madam President,

We have received your circular letter of Febr. 15, 1960, and wish to convey to you our best greetings. We hope that your conference in April will be a great success and that your work for a better status of women in Japan will bear fruit.

The subject "use of leisure time" is also of great interest in our country, especially regarding children. The ICW Standing Committee of Child and Family sent out a questionnaire in June 1959 on "Use of leisure time by children", which, I hope, will answer many questions concerning this topic. The reference number of this questionnaire is "SC/6/Paris and can be got at the ICW Headquarters in Paris.

With best wishes

Yours sincerely

Maud Arnoldson
Hon. corr. secr. of the SKN

20. SWITZERLAND

ALLIANCE DE SOCIETES FEMININES SUISSES

Dear Mrs. Tanino,

We take great interest in your regular yearly Women's Week and congratulate you on the theme: "Make time schedule of your own". The useful organization of leisure time is a problem in our country as well, and we should welcome a report on the findings you have made during your Women's Week. We shall inform the women of Switzerland of your efforts to educate the women of your country, through our monthly press service.

Permit us to send you our best wishes for a successful study week and for the advancement of women in your beautiful country which we all long to visit one day. Needless to say that we shall receive any Japanese women visitors with the greatest pleasure.

Yours sincerely,
THE NATIONAL COUNCIL OF WOMEN OF
SWITZERLAND

The President :

Dora J. Rittmeyer-Iselin

21. UNION OF SOVIET SOCIALIST REPUBLIC

SOVIET WOMEN'S COMMITTEE

Dear friends,

The Soviet Women's Committee desire, on behalf of the women of the Soviet Union, to express their most cordial greetings to the women of Japan on the occasion of the anniversary of their being guaranteed a right to vote, and send them best wishes of success in their public activity and in their efforts for the maintenance of Peace and the promotion of friendly contacts with the women of different countries of the world.

Soviet women are sure that the Twelfth Women's Week, held under the slogan of the improvement of women's life, will awaken warm response in the hearts of Japanese women, and will unite the widest layers of women for the achievement of this noble goal, that can be reached only in conditions of Peace. Soviet women express the hope that Japanese women, who are a great public force, will spare no effort to secure that Japan would do the necessary for the promotion of Peace, so ardently desired by all ordinary people of the world.

As Soviet women consider of the greatest importance the promotion of mutual understanding between Soviet and Japanese women, we are all for the development and expansion of our friendly contacts.

22. UNITED KINGDOM

THE NATIONAL COUNCIL OF WOMEN OF GREAT BRITAIN

Dear Mrs. Tanino,

Thank you for sending us news of the 12th Women's Week which is to be held under your Sponsorship on April 10th this year. Our Members are very interested to hear of it, and feel that the theme you have chosen is a particularly valuable one at this time.

On Behalf of the National Council of Women of Great Britain
I send you all good wishes for the success of your campaign.

Yours sincerely,

PRESIDENT.

Jean Robins

23. UNITED STATES OF AMERICA

MISS BERTHA S. ADKINS
UNDER SECRETARY OF HEALTH, EDUCATION, AND WELFARE

It is a pleasure to send my personal greetings and warm good wishes to the women of Japan as you commemorate your fourteenth year of suffrage and the memorable gains you have attained in raising the status of the women during these years.

The women of this country, I am sure, applaud your theme, "Make a time schedule of your own." We lead busy lives, whether as homemakers and mothers, or as wage earners in the business and professional world. Many women combine these careers. But in spite of this, millions of American women have found the time to work in their communities, helping to obtain better hospitals and schools, helping to raise funds for medical research, and in support of many causes to help the unfortunate and needy. American women have found the time also to become informed on political issues and to take an active part in the political life of the Nation.

I know that the women of my country join me in the hope that on both sides of the Ocean we may continue our efforts toward personal improvement and the enhancement of our communities and Nations. Best wishes to all the women of Japan on this historic occasion.

It has been a privilege to attend this program celebrating Women's Week -- a symbol of the increasingly important role of women both here and throughout the world. American women everywhere join with me in congratulations and best wishes to the women of Japan.

MISS ALICE K. LEOPOLD

To the Women of Japan, warmest good wishes and greetings on the important occasion of your 12th Women's Week. This glorious milestone each year is the occasion for celebration all over the world by the friends of the courageous women of Japan.

May I congratulate you on the significance of this year's theme, which stresses the necessity of a woman's scheduling her time. Nothing could be more vital in this world of 1960. For all women in all free countries have before them a fabulous array of opportunities today. Yet each shining opportunity is open only to that woman who has judiciously arranged the hours in her day so that she can assume the responsibilities dictated by her heart. She is glad of the fact that her horizon has widened beyond her home, and in addition to her traditional duties as homemaker and mother, she now takes an active part in the citizenship responsibilities of her homeland, the better to insure a still brighter destiny for her children.

Women in our free lands have mutual goals. We are bound together by friendship that transcends the widest oceans and unfamiliar languages. Working together we can hope to spread a greater measure of peace and understanding throughout the world.

May your Women's Week be an occasion for rejoicing in your fine accomplishments, and for envisioning an even finer tomorrow.

Alice K. Leopold
Assistant to the Secretary of
Labor and Director of the Women's
Bureau, U.S. Department of Labor

MISS FRIEDA S. MILLER

Dear Mrs. Tanino:

Thank you for your recent letter telling me that Women's Week in Japan will again be celebrated for the week of the 10th to 16th of April. I am very glad, indeed, to know both that the Women's and Minors' Bureau and the Voluntary Organizations of Women are continuing their effective work in making this Women's Week an outstanding celebration in the life of Japan.

As you know, I have been interested in the whole program of the Bureau's work and in the growth of the Women's Organizations, and it gives me a warm sense of continued contact with all this

to be permitted to greet you for this occasion! I am confident that your deliberate purpose in calling for special thought to be given to assuring free time, both for the expansion for one's own competence and usefulness and for the betterment of the community, will further strengthen your work. And I wish you your well deserved success.

I shall hope to continue to keep in touch with you and be able to observe the growing strength of your program.

With cordial wishes,

Frieda S. Miller

AMERICAN ASSOCIATION OF UNIVERSITY WOMEN

Dear Mrs. Tanino:

The American Association of University Women congratulates the women of Japan as you celebrate Women's Week and observe the anniversary of the granting of suffrage for women. This year women of the United States, too, observe an anniversary, that of the passage in 1920 of an amendment to our Federal Constitution granting suffrage to women.

In this anniversary year the women of both our countries can look with pride on records of participation as voting citizens while taking cognizance of the task remaining to us, that of insuring full use of the abilities of women for the good of all our peoples. Much of this has been, and will be, accomplished through voluntary associations of women willingly giving of their time and talents. The many associations of Japanese women testify to the responsibility and dedication of Japan's women citizens. With one of these organizations, the Japanese Federation of University Women, we feel special bonds. Together we are affiliated in the International Federation of University Women with women of many countries to further the advancement of women and to aid those who have enjoyed the advantages of higher education in discharging their special responsibilities to society.

The American Association of University Women welcomes this opportunity to greet the women of Japan and to extend congratulations on a proud record of achievement.

Sincerely,

Anna L. Rose Hawkes
President

THE NATIONAL FEDERATION OF
BUSINESS AND PROFESSIONAL WOMEN'S CLUBS, INC.

Dear Mrs. Tanino:

As President of the National Federation of Business and Professional Women's Clubs, the largest and oldest American organization of business and professional women, I am happy to extend the congratulations and greetings from our 174,000 members in the United States, the District of Columbia, and Puerto Rico on the occasion of 1960 "Women's Week in Japan."

Our members work for the advancement of women in their chosen professions, in education, and in citizenship. We were founded in 1919, just a year before women gained the right to vote. Therefore, it is of particular interest to note that "Women's Week in Japan" this year is being celebrated as the anniversary of granting suffrage to the women of Japan.

Your theme "making a time schedule of your own" is one that appeals especially to business and professional women. In order to have leisure time -- after working hours -- to give to the important activities of our Federation, our members have learned the advantages of having time schedules. An example of the kind of volunteer community service our members perform after work hours is our Traffic Safety Survey, just completed. Our clubs made surveys in their home towns, of all traffic signs, following a general plan which we sent them from our National Headquarters. They also interviewed state and local traffic engineers, and various government officials in this field. Results of these hundreds of surveys are now being compiled and will form the basis for improvement of safety measures over the country.

It occurs to me that you and your associates might be interested in some of our booklets, describing our activities in the Federation. I am enclosing some samples.

Last summer in Paris at the meeting of The International Federation of Business and Professional Women's Clubs, I was happy to extend greetings to the Federation of Business and Professional Women of Japan, who had just joined the International Federation.

Again, all good wishes for a most rewarding and interesting "Women's Week in Japan".

Sincerely,

Grace B. Daniels, President,
The National Federation of
Business and Professional
Women's Clubs, Inc.

CARRIE CHAPMAN CATT MEMORIAL FUND, INC.

Dear Mrs. Tanino:

It is a very great privilege to congratulate the women of Japan on their progress towards the goals we share in common.

On the occasion of your observance of the 12th Women's Week which begins April 10th, to commemorate the receiving of the right to vote by the women of Japan in 1946, we should like to offer our warmest best wishes.

The emphasis you are putting on the role of women in helping to improve their community is a goal that we share.

May you have continued success in your program.

Sincerely yours,

Mrs. John Glessner Lee,
President

COMMITTEE OF CORRESPONDENCE

Dear Mrs. Tanino,

The Committee of Correspondence would like to add its warm greetings to those which must be reaching you from many lands, to honor the women of Japan as they gather together in Women's Week Celebrations.

We women of the U.S.A., who worked seventy years to achieve our vote, value our suffrage tremendously, as you do. We join with you in this celebration of your women's suffrage and send you hearty congratulations for the extent and variety of work that you are doing throughout Japan to help in your country's advancement and progress.

The Committee of Correspondence is deeply interested in the theme of your deliberations this year. As you know, we work closely with women in 92 countries and areas. We find a universal concern among them regarding the organization of their time, a perplexing conflict in many minds between responsibility to their homes and responsibility to their families.

We would, therefore, be particularly interested if it is possible for us to receive a report of the discussions or recommendations which come out of your Celebration sessions.

May you have a successful "Week" and a happy year ahead.

Sincerely,

G. Alison Raymond (Miss)
Executive Director

THE COUNTRY WOMEN'S COUNCIL, U.S.A.

THE ASSOCIATED COUNTRY WOMEN OF THE WORLD

Dear Mrs. Tanino:

It is with great pleasure that I send you greetings from the Country Women's Council of the U.S.A. on this anniversary of the granting of suffrage for women of Japan. I especially am speaking for the rural women of the United States and want you

to know that we each work out a time schedule such as you have chosen for your theme for the week, "Making a Time Schedule of your Own".

As rural women, we devote time first to our households and then adjust our leisure time to various activities. We especially like to devote time to help programs for youth, for health, for safety, as well as religious life. Many of us give one or two days each week to such activities and find great satisfaction in helping others. In this manner, we not only help to improve ourselves but our community as a whole.

May this "Women's Week" in Japan be fully cognizant of the bond of friendship which has been renewed by the recent signing of the "Treaty of Mutual Cooperation and Security Between Japan and the United States", by President Eisenhower and Prime Minister Nobusuke Kishi, and may the bond between our peoples continue in friendship and mutual help for each other.

Respectfully yours,

Mrs. Everett Spangler, Chairman
Country Women's Council, U.S.A.

DEMOCRATIC NATIONAL COMMITTEE

Dear Mrs. Tanino:

I am delighted to hear from you and to know that you are continuing to celebrate Women's Week in Japan.

As you gather together for this important week, the 12th Women's Week in Japan, working for more participation and responsibility in civic affairs, the thoughts and best wishes of all of us are with you. The women throughout the world must take an increasing part in public life and public planning if we are to achieve and maintain what must be the goal of each of us--world peace.

Sincerely,

Katie Louchheim

LEAGUE OF WOMEN VOTERS

Dear Mrs. Tanino:

Congratulations and best wishes to the women of Japan on the occasion of your 12th Women's week.

The theme of your conference is a particularly appropriate one for the year 1960. The increased opportunities for professional and civic activities now open to women make it necessary for women today to plan their time wisely.

We hope the conference will make a significant contribution to this end.

Sincerely,

Mrs. Robert J. Phillips
President

LETTER WRITING COMMITTEE

THE PEOPLE TO-PEOPLE PROGRAM

Dear Mrs. Tanino:

1960 being the Centennial of Japanese and United States diplomatic relations it is a particular pleasure to send you our good wishes on the occasion of your Women's week.

The community in which each of us lives should be in large part a reflection of the women who live there. So also can the sympathy and understanding of that community for the welfare of people in other countries be furthered by the women.

How can it be that women with all of their other responsibilities undertake this work also?

In the United States we have a saying that if you want something done, turn to the busy woman for she is the best organized one who knows how to allocate her time and accomplish her objectives.

Couldn't we all of us take a fresh look at what we do each day and each week and see whether we could not find more time for the truly important things in life, such as helping to improve the opportunities for people to live better lives both at home and abroad.

With congratulations to the women of Japan for what they have accomplished to date and all good wishes for the future, I am,

Sincerely yours,

Anna Lord Strauss
Chairman Letter Writing
Committee

NATIONAL COUNCIL OF THE CHURCHES OF CHRIST

Dear Mrs. Tanino:

United Church Women of the National Council of the Churches of Christ in the United States of America wish to send greetings to the women of Japan at the time of the celebration of Women's Week in 1960.

We have followed with deep interest the tremendous progress which has been made by women in Japan since the granting of the suffrage in 1946. The number of women now serving in positions of responsibility indicates their response to the privileges and opportunities which have been granted to them.

The theme of your observance is a most interesting one. Judgement in the wise use of time is probably one of the most challenging responsibilities facing women today who carry the dual obligation of guarding their homes and participating in the public life of their communities. It is of prime importance to encourage women to serve in voluntary as well as professional capacities in the areas of social service such as children's welfare, health and education. Perhaps one of the greatest contributing forces to the development of the United States has been the number of women who have given their free time in educational services and in meeting community needs. Japanese women, too, are gaining the strength and satisfaction that comes from giving of themselves, not only that their country may pro-

gress, but that it can be an important partner in the family of free nations of the world, helping to establish a firm foundation for lasting peace.

United Church Women, as you know, is a channel in our country through which church women in 2,300 local communities work together among other things in areas of housing, juvenile delinquency, improved schools, wider acceptance of human rights, and full equality for all citizens.

This anniversary of the granting of suffrage is especially important because it commemorates also the 100th anniversary of the establishment of diplomatic relations between our two countries.

We send congratulations to the women of Japan, and wish them success as they undertake another year of work in behalf of a better life for the women of their country.

Sincerely yours,

Mrs. Wm. Sale Terrell,
President, United
Church Women

NATIONAL COUNCIL OF JEWISH WOMEN

Dear Mrs. Tanino:

The National Council of Jewish Women takes great pleasure in greeting the women of Japan on their twelfth Women's Week celebration. We salute you on this happy anniversary of the granting of suffrage to the women of Japan. The women of Your great country have made remarkable progress and should indeed be proud of their achievements.

This is a particularly felicitous occasion since it celebrates also the hundredth anniversary of the establishment of diplomatic and economic relations between Japan and the United States, an event of the highest significance to both our countries. Since that time, Japan has risen to become one of the great industrial centers of the world.

American women had the same struggle as other women throughout the world in obtaining suffrage and equality of opportunity. The process is still not complete and is constantly going on.

Japanese women may be interested in the activities of our organization which was founded 66 years ago. Since then it has grown to a membership of 110,000 in 240 communities throughout the United States. We have a national office located in New York City and every two years we meet in Convention to elect officers and to map out our program for the next two years. Most of our members are married women with leisure which they devote to volunteer activities in their home communities. They conduct over 900 educational and social welfare projects throughout the country for the aged, for children and youth, for the handicapped and the emotionally disturbed. Many of our services extend beyond our own shores to other countries that need help or guidance. We are concerned with education, citizenship, and world movements for international understanding. We also conduct study groups and cultural programs for our own enjoyment.

We watch with interest and high hopes your progress and rejoice in your achievements. We look forward to the continued growth and selfrealization of our Japanese sisters. Together we shall work for our mutual aims: the betterment of human welfare, understanding between peoples, and the cause of peace.

Please accept our hearty congratulations and our warmest wishes for happiness and self-fulfillment.

Sincerely yours,

Mrs. Charles Hymes
President

NATIONAL COUNCIL OF NEGRO WOMEN, INC.

Dear Mrs. Tanino:

The National Council of Negro Women sends greetings to you on the occasion of Women's Week now being held as the anniversary of the granting of suffrage for women of Japan.

We congratulate you on the theme of your celebration "Making a Time Schedule of Your Own." The emphasis on use of leisure time for self improvement and betterment of the community is appropriate for this Jet Age.

In our National Organization, Negro women are striving likewise to grow in experience and to serve more adequately in community life.

Best wishes for future success in your efforts.

Yours sincerely,

(Miss) Dorothy I. Height
National President

NATIONAL COUNCIL OF WOMEN OF THE UNITED STATES, INC.

Dear Mrs. Tanino:

In the name of the National Council of Women of the United States I am herewith sending you our very best wishes for the 12th Women's Week to commemorate the first practice of voting by the Japanese women in 1946.

We have informed our membership of this fact and I can speak for all in sending you messages of encouragement.

With best wishes,

Very sincerely yours,

Mrs. Dewitt Stetten
Vice President

THE PAN PACIFIC AND SOUTHEAST ASIA WOMEN'S ASSOCIATION

Dear Mrs. Tanino:

On the occasion of your twelfth Women's Week Celebration The PPASAWA of the USA expresses its great admiration for all that the women of Japan have accomplished over the past few years in constructive programs. We send you our best wishes for the further development of your activities in the years ahead.

We, in this organization are especially glad to be able to associate ourselves with you during this well deserved "Week of Recognition" because a number of us were privileged to attend the eighth Triennial Conference of PPASAWA held August 1958 at the I.C.U. Tokio. We have the most happy memories of the gracious hospitality extended to us by many Japanese ladies on that occasion, and also of the stimulating conversations we had with them.

Greetings and best wishes,

Chairman

Persia Campbell

NATIONAL BOARD YWCA

THE NATIONAL BOARD YWCA OF THE USA SENDS CORDIAL GREETINGS AS YOUR COUNTRY CELEBRATES WOMENS WEEK WE APPRECIATE YOUR GREAT CONTRIBUTION TO THE WELFARE OF WOMEN AND GIRLS IN JAPAN

LILACE REID BARNES

PRESIDENT

24. YUGOSLAVIA

FEDERATION OF WOMEN'S SOCIETIES OF YUGOSLAVIA

Dear Friend,

It is with pleasure that we are meeting your suggestion to send, on the occasion of the traditional celebration of the Women's Week, our greetings to the women of Japan - the country geografically very far from us but close and akin to us by its efforts in the struggle for peace and against the nuclear armament and nuclear weapon tests which are a continuous danger to the human race.

The women throughout the world find a common language when peace is in question, like they find it for problems concerning their aspirations for a general betterment of the living conditions of the community in which their everyday life and activities are developing.

In our country great attention is paid to the work of the social organisations and bodies of local self-government and to that all the citizens take part in them. The women are very active in the bodies of workers management in the enterprise and social self-government in the commun, since in those very bodies the questions they are mostly interested in, like the questions of the standard of living, social policy, education, health, children's institutions, social services and help to households, etc., are solved. The raising of general standards and the promotion of different services in order to help the family of employed people enable the woman to work on the raising of her own culture, on the acquiring of general knowledge and vocational training, to devote more of her free time to her cultural life and education of children, and at the same time to engage in the work of social organisations and social life in general.

Welcoming the Women's Week of this year, we wish the Japanese women every success in their work for their own benefit and that of the entire community.

Yours Sincerely

Marija Kos

Secretary

25. INTERNATIONAL ORGANIZATIONS

INTERNATIONAL COUNCIL OF WOMEN

Dear Mrs. Tanino,

"On the occasion of the 12th Women's Week, the International Council of Women extends its most cordial greetings to the women of Japan. The Council has followed very closely the progress made by the women of Japan since 1946 when, for the first time they were able to voice their opinions by vote.

The International Council of Women maintains its conviction that by working together the women of the world can not only improve the social and economic conditions for

women but also be most influential in improving international relations in view of attaining world peace and security".

Sincerely yours,

C. Pomonti
Secretary

INTERNATIONAL FEDERATION OF BUSINESS AND PROFESSIONAL WOMEN

Dear Mrs. Tanino,

As the 12th anniversary approaches of the day when Japanese women first were permitted to vote, I send you on behalf of the International Federation of Business Professional Women greetings and all good wishes. I would like to express my admiration of the progress made in so short a time by the women of Japan with congratulations to you and the members of your Bureau for their devoted work in the cause of women.

I have read with interest the account of the celebrations planned and appreciate the value and the application of the theme chosen.

This year our Federation feels more closely associated with Women's Week in Japan because of the formation last year of the National Federation of Business and Professional Women's Clubs of Japan. We are very happy to share fellowship with members in Japan.

With all good wishes,

Yours sincerely,

Jean M. Randall

Vice President & Membership Chairman